PERIODICAL

64

#64

Operations for Dec. 1958

LIBRARY

JAN 5 1960

FISH & WILDLIFE SERV

鮪漁業 第六十四号 昭和三十四年十二月十日発行 （毎月一回十日発行）
昭和三十一年二月二十三日 第三種郵便物認可

# 鮪漁業

# TUNA FISHING

鮪漁業研究会

THE INVESTIGATIVE SOCIETY OF TUNA FISHERY ··· JAPAN ···

No. 64, 1959

December, 1959

多年の技術と経験を生かす！

営　業　種　目

船舶・陸上

冷凍・冷蔵・製氷・冷房

冷凍・冷蔵・製氷工場
急速・空気凍結装置
冷房装置・冷凍機械器具
防熱装置・船舶冷凍冷蔵
設計　製作　施工

# 協同低温工業株式会社

本　社　東京都千代田区神田佐久間町河岸58（夏目ビル2階）
電話　東京（866）0996・0997番
札幌営業所　札幌市北五条西5丁目　電話　札幌（2）4895番

倉敷ビニロン　クレモナ　万漁

鮪延縄◆ロープ◆漁網

くさらない
使いやすい
値も安い

# 倉敷レイヨン株式会社

本　社　大阪市北区梅田2（第一生命ビル）
東京事務所　東京都中央区日本橋室町　2の4

# 目　次


鮪漁船紹介　第25福吉丸　第6東丸

鮪漁場図　1958年12月操業

鮪漁況速報　1958年9月下旬，10月上旬，10月中旬

1958年12月に於ける鮪漁場の漁況と海況（委託調査船310隻の資料に依る）
Fishing and Sea Condition of Tuna Fishing Ground in Dec. 1958
(By the data collected from the 310 appointed boats) …… 1

1. 調査の概要 …… 1
2. 漁況の概要 …… 1
3. 各海区の漁況と海況 …… 2
A. 赤道以南140°W以東の漁場 …… 2
B. 赤道以北180°—140°Wの漁場 …… 3
C. 赤道以南180°—140°Wの漁場 …… 3
D. 北部太平洋漁場 …… 4
E. 旧南洋庁沿海漁場 …… 5
F. ソロモン以南漁場 …… 6
G. 東部印度洋漁場 …… 7
H. 中西部印度洋漁場 …… 8
I. 大西洋漁場 …… 9

月別，漁場別，鮪類漁獲調査表（1958年12月操業分）別表1 …… 10
月別，漁場別，鮪類体長組成表（1958年12月操業分）別表2 …… 14
会員レポート・昭和34年1，2月におけるフアンニング南側周辺の海況と漁況
会員　第27琴平丸船長　高橋　昇 …… 21
マグロ漁況概況予報（1960年1月） …… 神奈川県水試漁業指導科 …… 22
鮪類水揚価格表（三崎）昭和34年10月 …… 24
鮪類標識放流について …… 24
マグロ研究報告の紹介 No. 7 …… 25
かつをまぐろ漁業の現況とその問題点 (三)
北洋さけ・ます漁業者によるかつを・まぐろ漁業転換問題に関連して …… 26
昭和33年度会務及び事業報告 …… 30

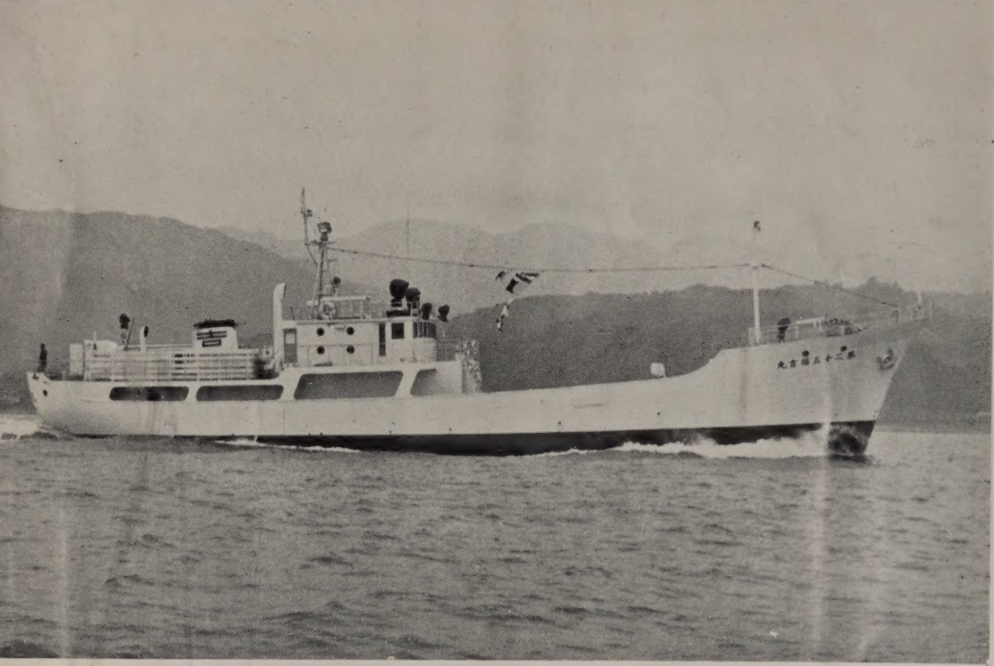


鋼製漁船・貨物船・建造並びに修理

株式会社　三保造船所

本　社　静岡県清水市三保3797　電話清水(2)代表2201番

東京事務所　東京都中央区八重洲3の7東京建物ビル705　電話　千代田（27）5522. 6775. 9761番



第25福吉丸

| | | |
|---|---|---|
| 船　主 | 塩谷　吉之助（焼津市） | |
| 造船所 | 株式会社　金指造船所 | |
| 主要寸法 | | 長36.70m×幅7.10m×深3.40m |
| 総屯数 | | 250.01屯 |
| 魚艙容積 | | $252m^3$ |
| 燃料油艙 | | $133m^3$ |
| 速　力 | | 最大　11.37節 |
| 主　機 | デーゼル　550HP過給機付（赤阪） | 1基 |
| 補　機 | デーゼル　85HP（ヤンマー） | 2基 |
| 無　線 | 150W，75W（七洋電機） | 各1基 |
| 冷凍装置 | 日新興業設計施工 アンモニヤ直膨式 | 5″×5,″5″×4.5″各1基 |
| レーダー，魚探（産研），ローラン（東計） | | 其の他　各1式 |
| 竣　工 | | 昭和33年12月30日 |


各種漁船用ディー
50馬力～

株式会社　赤

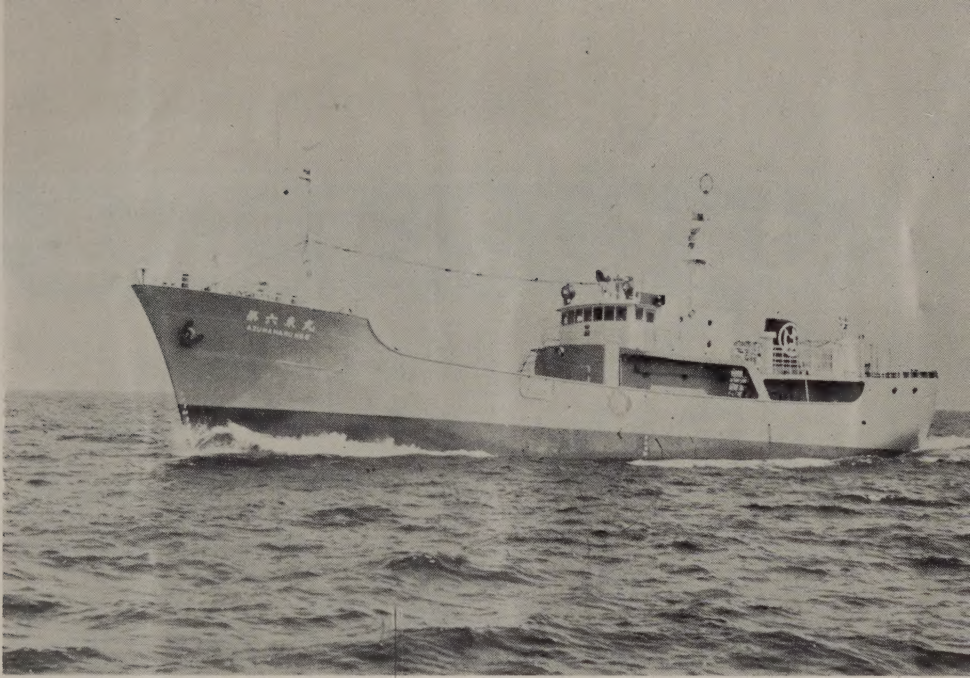
本　社　東京都中央区銀座一ノ
北海道出張所　札幌市北四条西六丁目
大阪出張所　大阪市東区北浜四ノ三
工　場　静岡県焼津市中港町



各種鋼製漁船の建造並に修理

# 株式会社　金指造船所

本社工場　清水市三保4010—19　電話　清水(2)4111～5
塚間工場　清水市三保弁天492　電話　清水(2)5151～2
東京事務所　東京都港区芝田村町3ノ4　電話　芝(59)1306～8
三崎出張所　三浦市三崎町西野34　電話（三浦）2851



第 6 東 丸

| | |
|---|---|
| 船主 | 大洋漁業株式会社 |
| 造船所 | 東造船株式会社（横須賀市） |
| 主要寸法 | 長36.40m×幅6.80m×深3.40m |
| 総屯数 | 238.16屯 |
| 魚艙容積 | 230m³ |
| 燃料油艙 | 123m³ |
| 速力 | 最大 12.19節 |
| 主機 | デーゼル 650IP（神戸発動機） 1基 |
| 補機 | デーゼル 75IP（ヤンマー） 2基 |
| 無線 | 250W，100W 各1基 |
| 冷凍装置 | 三菱電機 R.T R.T アンモニヤ直膨式23.5×1 19.0×1 2基 |
| レーダー（安立電波）方探（光電）其の他 | 各1式 |
| 竣工 | 昭和34年9月14日 |


ゼル機関は定評ある
5000馬力

阪 鉄 工 所

三（千成屋ビル）電話京橋（56）4902〜3
（北洋ビル） 電話（3）4507
八 電話北浜（23）4790
五九四 電話（焼津）2121〜5

漁船の冷凍装置に定評ある

日 新 興 業 株 式 会 社

本社 大阪市北区中之島3の3（朝日ビル）TEL. 北浜（23）9736（代表）
東京支店 東京都中央区銀座西6の3（朝日ビル）TEL. 銀座（57）7607（代表）
室戸出張所 高知県室戸市室津 TEL. 室戸 352
清水出張所 清水市三保本村四区 TEL. 清水（2）3507
三崎出張所 神奈川県三浦市三崎町西野34 TEL. 三浦 2751
石巻出張所 宮城県石巻市門脇町104 TEL. 石巻 505

施工船名
第25福吉丸
第6東丸
第8長栄丸
第12順光丸
第88大黒丸
第35宝幸丸
（其の他約七百隻）

JRC 漁船用無線装置

常に新しい研究と最高技術に輝く

定評ある送信機
優秀な受信機
新設計の船内拡声装置
超小型魚群探知機

日本の誇り
国産レーダー
漁場の測定に
ロラン受信機
安全航海に
気象模写受信装置

本社・工場　東京都三鷹市上連雀930
事業部　東京都港区芝田村町1の7
第3森ビル（5・6階）
大阪支社　大阪市北区堂島中1の22

JRC
日本無線



光電の方探

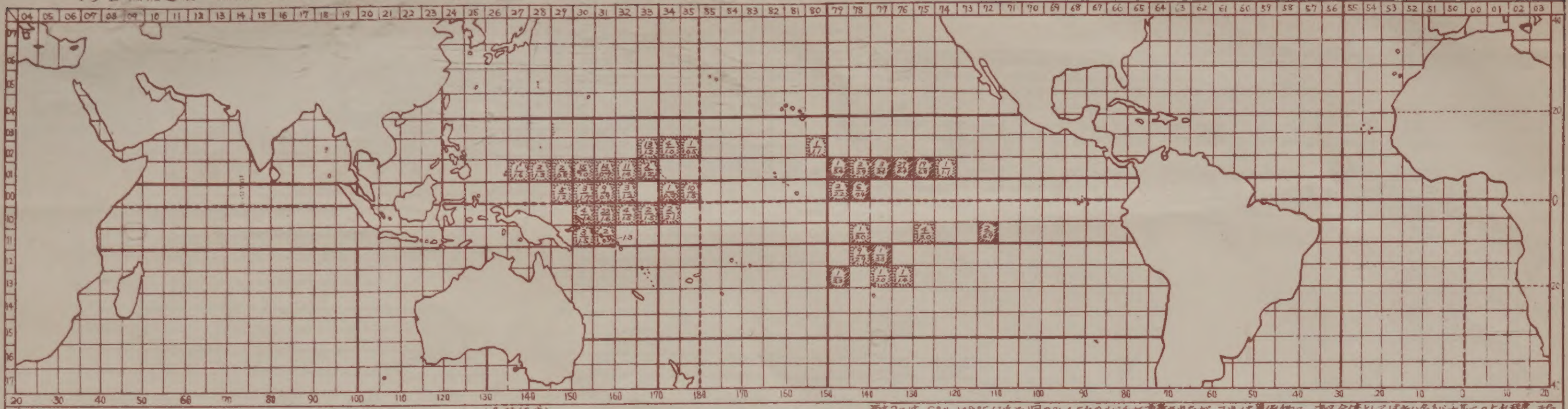
Koden のロラン

株式會社 光電製作所
東京都品川区上大崎長者丸284
電話白金(44)代表1131～7番

Koden Electronics Co. Ltd.

## マグロ漁況速報　1959年　9月　下旬

■は7.5尾以上、▨は3.1尾から7.5尾まで、□は3.1尾以下を示す。また、上段の数字は操業船数、下段の数字は釣獲尾数を示す。



（海区の分類）

| 符号 | 名称 | 範囲 | 符号 | 名称 | 範囲 | 符号 | 名称 | 範囲 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| アラ | アラビア海 | N5°以北, E80°以西 | 西太4 | 西太平洋4 | S10°-S30°, E130°-E170° | 東太3 | 東太平洋3 | N5°-S10°, W150°以東 |
| ベン | ベンガル湾 | N5°以北, E80°-E100° | 〃5 | 〃 5 | S30°以南, 〃 | 〃4 | 〃 4 | S10°-S30°, 〃 |
| 中印 | 中印度洋 | N5°-S10°, E100°以西 | 中太1 | 中太平洋1 | N20°以北, E170°-W150° | 〃5 | 〃 5 | S30°以南, 〃 |
| 南印 | 南印度洋 | S10°以南, E20°-E100° | 〃2 | 〃 2 | N5°-N20°, 〃 | 西大北 | 西大西洋北部 | N5°以北, W30°以西 |
| 南支 | 南支那海 | N5°以北, E120°以西 | 〃3 | 〃 3 | N5°-S10°, 〃 | 〃中 | 〃 中部 | N5°-S5°, 〃 |
| 西太1 | 西太平洋1 | N20°以北, E120°-E170° | 〃4 | 〃 4 | S10°-S30°, 〃 | 〃南 | 〃 南部 | S5°以南, 〃 |
| 〃2 | 西太平洋2 | N5°-N20°, 〃 | 〃5 | 〃 5 | S30°以南, 〃 | 東大北 | 東大西洋北部 | 0°以北, W30°以東 |
| 〃3 | 西太平洋3 | N5°-S10°, 〃 | 東太1 | 東太平洋1 | N20°以北, W150°以東 | 〃南 | 〃 南部 | 0°以南, 〃 |
| 濠西 | 濠州西部 | S10°以南, E100°-E130° | 〃2 | 〃 2 | N5°-N20°, 〃 | | | |

（魚種組成）

| 海区 | キハダ | メバチ | ビンナガ | メード | ゴウシュウ | クロカワ | シロカワ | マカ | メカ | 雑 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 西太2 | 48.0 | 27.4 | 0.8 | | | 13.9 | 0.1 | 0.1 | 0.1 | 9.6 |
| 西太3 | 77.1 | 11.4 | 0.7 | | | 5.1 | 0.2 | 0.1 | 0.1 | 4.8 |
| 中太2 | 21.8 | 62.2 | | | | 16.1 | | | | |
| 中太3 | 70.7 | 18.6 | 0.1 | | | 3.9 | 0.1 | 0.3 | | 6.3 |
| 東太2 | 22.0 | 66.2 | | | | 10.0 | 0.2 | 0.5 | 1.0 | |
| 東太3 | 20.4 | 50.5 | 10.2 | | | 3.6 | 0.6 | 0.9 | 0.2 | 13.5 |
| 東太4 | 12.1 | 5.9 | 76.2 | | | 3.5 | | 2.0 | | 0.2 |

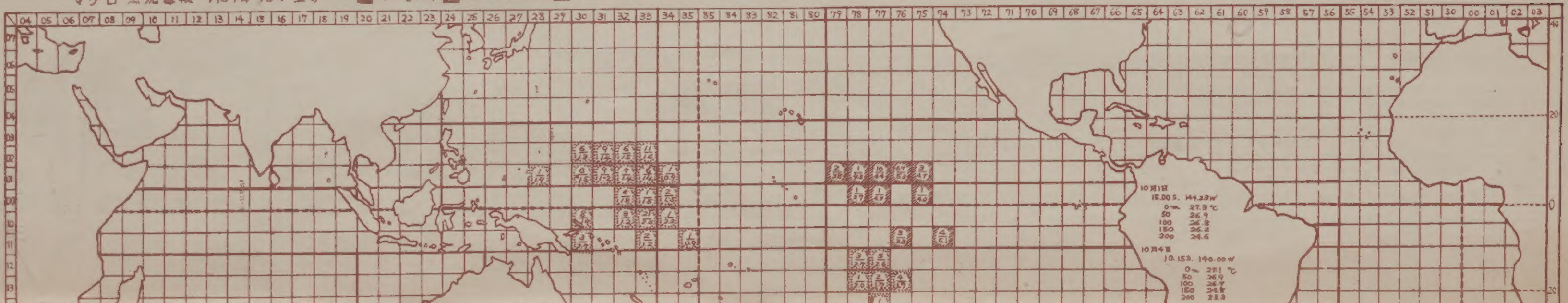
（概況）　西太2では、6°N、148°E付近で1回のみ4.5尾のメバチが漁獲されたが、これは異例的で、海区全体としてはキハダ、メバチ共に0.5尾程度。また、西太3はキハダが殆んどを占め、漁獲は2.6尾である。西太3のキハダの釣獲率は、0～5°Nの水帯が1.9、0～5°Sの水帯が2.9、5～10°Sの水帯が1.7で、0～5°Sの水帯が最も高い。この釣獲率は平年より稍低く、特に小海区1130、1131はかなり低い。中太2は0234が1.2尾、0280が0.5尾でメバチが半数以上を占めているが、漁獲は低い。5～10°Nの水帯はこれら海区よりは高かったであろうが、未だ好漁期に入っていないので、2.0尾程度と考えられる。中太3の0034、0035及び1034はキハダが大半を占め、漁獲は1.3尾、不漁期に当るので平年並みである。

東太2はメバチが大半を占めているが、その漁獲は経度によって異なる。即ち、0175、0176は4.1尾、0177が1.6尾、0178が1.2尾、0179は4.7尾である。キハダは全海域0.9尾程度で経度による差はみられない。0174は1回で14尾メバチが漁獲されたが、小型魚が多かったせいか漁獲尾数は低い。東太3は海域によって著しく異なり、0075はキハダ1.3尾、メバチ6.0尾で9月中旬の0077と同様、0079はキハダ、メバチ共に漁獲が低く、キハダ0.4尾、メバチ0.5尾、1172は9月中旬と同様キハダが半数近くを占めているが、漁獲は両種とも低くなり、キハダ2.5尾、メバチ1.9尾、1175はメバチが多くてキハダが少く、メバチは2.5尾である。東太4の主目的魚であるビンナガは、15°S以北にのみ多く1.5～19尾、15～20°Sの水帯は極めて少い（0.3尾）。

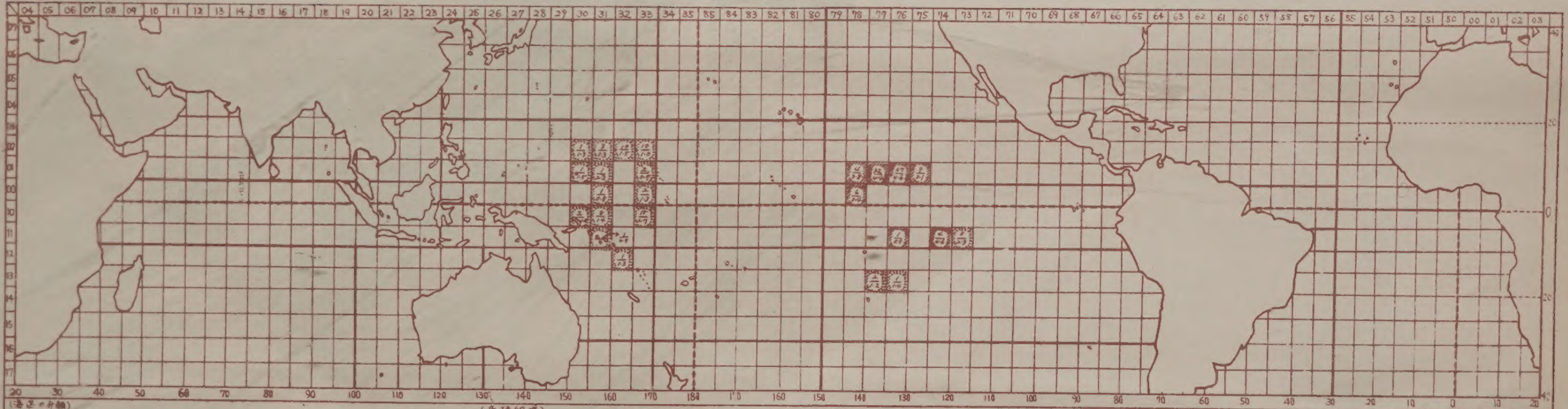
（注）[illegible]

## マグロ漁況速報　1959年　10月　上旬

■は7.5尾以上、▨は3.1尾から7.5尾まで、□は3.1尾以下を示す。また、上段の数字は操業船数、下段の数字は釣獲尾数を示す。



マグロ漁況速報　1959年10月中旬　　■は75％以上，▨は31％から75％まで，□は31％以下を示す。また，上段の数字は操業船数，下段の数字は漁獲比数を示す。



（海区の分轄）

| 符号 | 名称 | 範囲 |
|---|---|---|
| アラ | アラビア海 | N5°以北，E80°以西 |
| ベン | ベンガル湾 | N5°以北，E80°–E100° |
| 中印 | 中印度洋 | N5°–S30°，E100°以西 |
| 南印 | 南印度洋 | S30°以南，E20°–E[illegible] |
| 南支 | 南支那海 | N5°以北，E120°以西 |
| 西太1 | 西太平洋1 | N20°–N5°，E120°–E170° |
| ・2 | 西太平洋2 | N5°–N20°，〃 |
| ・3 | 西太平洋3 | N5°–N10°，〃 |
| 濠西 | 濠洲西部 | S10°以南，E100°–E130° |

| 符号 | 名称 | 範囲 |
|---|---|---|
| 西太4 | 西太平洋4 | S10°–S30°，E130°–E170° |
| ・5 | 〃5 | S30°以南，〃 |
| 中太1 | 中太平洋1 | N20°以北，E170°–W150° |
| ・2 | 〃2 | N5°–N20°，〃 |
| ・3 | 〃3 | N5°–S10°，〃 |
| ・4 | 〃4 | S10°–S30°，〃 |
| ・5 | 〃5 | S30°以南，〃 |
| 東太1 | 東太平洋1 | N20°以北，W150°以東 |
| ・2 | 〃2 | N5°–N20°，〃 |

| 符号 | 名称 | 範囲 |
|---|---|---|
| 東太3 | 東太平洋3 | N5°–S10°，W150°以東 |
| ・4 | 〃4 | S10°–S30°，〃 |
| 5 | 〃5 | S30°以南，〃 |
| 西大北 | 西大西洋北部 | N5°以北，W30°以西 |
| ・中 | 〃中部 | N5°–S5°，〃 |
| ・南 | 〃南部 | S5°以南，〃 |
| 東大北 | 東大西洋北部 | 0°以北，W30°以東 |
| ・南 | 〃南部 | 0°以南，〃 |

（魚種組成）

| 海区 | キハダ | メバチ | ビンナガ | インド | ゴウシュウ | クロカワ | シロカワ | マカ | メカ | 雑 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 西太2 | 39.3 | 34.3 | 1.3 | | | 20.6 | 0.1 | 0.6 | | 2.8 |
| 3 | 86.4 | 10.2 | 0.4 | | | 2.1 | 0.1 | | 0.1 | 0.8 |
| 4 | 56.3 | | 21.9 | | | 21.9 | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 東太2 | 12.3 | 77.1 | | | | 8.7 | 0.2 | 0.8 | 0.8 | 0.2 |
| 3 | 29.2 | 62.7 | 0.3 | | | 1.5 | 0.7 | 3.2 | 0.4 | |
| 4 | 10.4 | 26.4 | 14.9 | | | 21.7 | 3.8 | 2.8 | | |

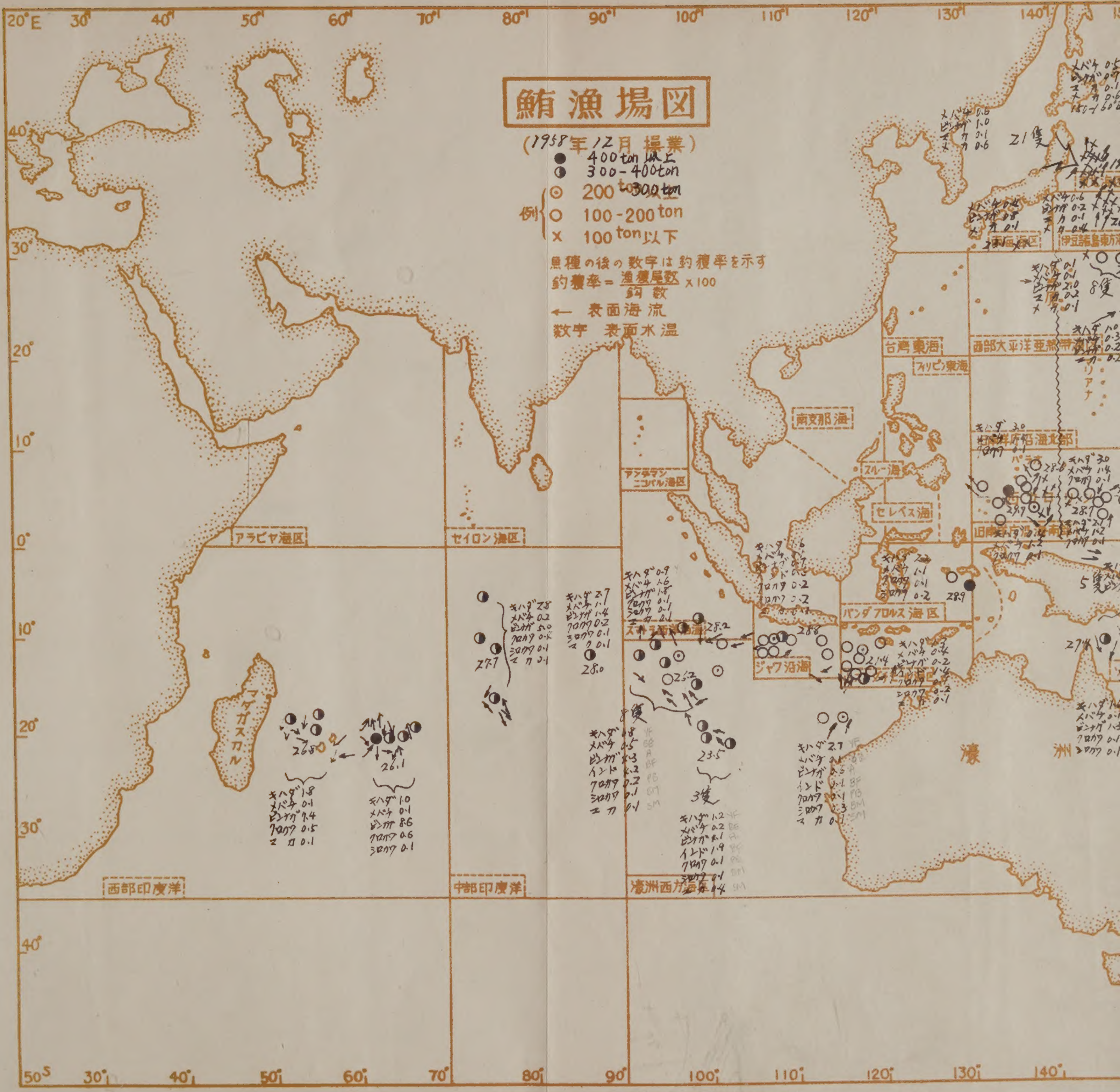
（概況）西太2　150°E以東はメバチの好漁初期に入るのでメバチが多くなって来たがキハダが半減したため漁獲高は上旬と大差ない。

西太3　この海区の漁獲物は殆んどがキハダである。小海区10.33のみは引続き好漁であるが他は全般的に漁獲低下し　特に上旬好漁であったニューブリテン島周辺は激減した。

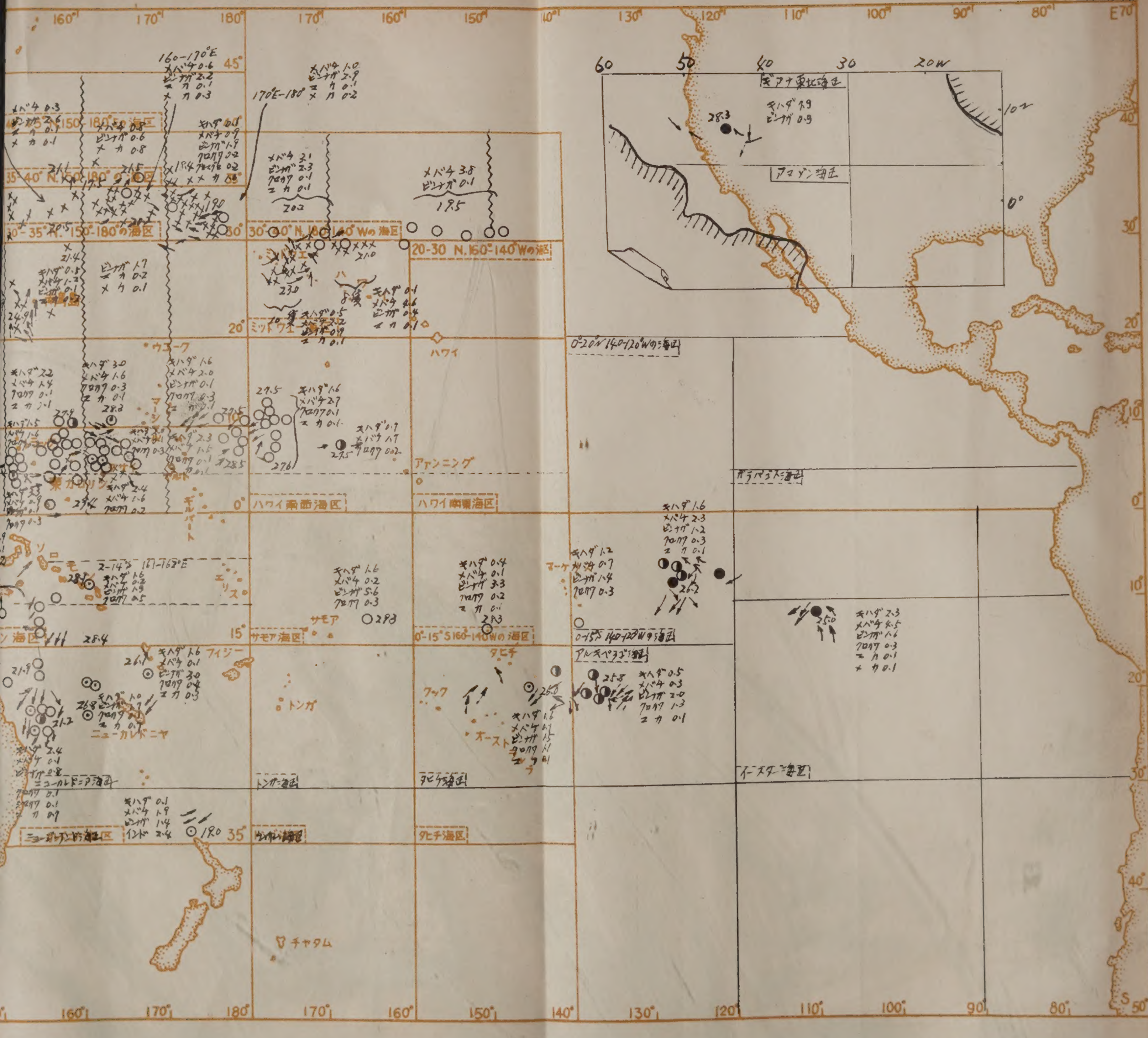
東太2　東太3　メバチの最盛期で漁況は上旬と殆んど変りない。なお小海区0078は4°N周辺にメバチが多く1°N周辺にキハダが多い。従って4°N周辺で全船が操業した9月下旬にはメバチ、1°N周辺で全船が操業した10月上旬にはキハダが多獲されているのでこの期間には1°Nと4°Nの間にキハダとメバチの分布の境が考えられる。また1173 1174 1176はメバチにより漁獲の殆んどが占められ、漁獲も多いが1173は3回のうち2回までシャチに襲われたため漁獲が少なくなっている。

東太4　9月に較べ10月上旬中旬と次第にビンナガが減少している。

（注）漁場小区域の番号一緯度，経度の数字で示す。[illegible]



鮪漁場図
(1958年12月 操業)
● 400ton 以上
◑ 300-400ton
⊙ 200-300ton
例 ○ 100-200 ton
× 100 ton 以下
魚種の後の数字は釣獲率を示す
釣獲率 = 漁獲尾数 / 鈎数 × 100
← 表面海流
数字 表面水温
アラビヤ海区
セイロン海区
西部印度洋
中部印度洋
濠洲西方海区
アンダマン ニコバル海区
ジャワ沿海
バンダフロレス海区
セレベス海
スルー海
南支那海
台湾東海
フィリピン東海
西部太平洋亜熱帯海区
伊豆諸島東方
マダガスカル
濠洲



ミッドウエー
ハワイ
ウエーク
ファンニング
ハワイ南西海区
ハワイ南東海区
20-30 N. 160°-140°Wの海区
東カロリン
ギルバート
エリス
サモア
サモア海区
0°-15°S 160-140°Wの海区
フィジー
トンガ
ニューカレドニヤ
タヒチ
クック
オーストラル
チャタム
トンガ海区
タヒチ海区
ギアナ東北海区
アマゾン海区
ガラパゴス海区
イースター海区

# 1958年12月に於ける鮪漁場の漁況と海況

（委託調査船310隻の資料に依る）

Fishing and Sea Condition of Tuna Fishing Grounds in Dec. 1958
(By the data collected from the 310 appointed boats)

## 1. 調査の概要

夏季以来増加を続けた委託調査船数は，11月の334隻を頂点として12月は310隻とやや少く，調査海区数は30であった．調査状況を11月と比較すると，イースター海区が初めて調査され，30—40°N，180—140°Wの海区の調査船は激減しているが，ミッドウェー海区，ハワイ南西海区5°N以北では増加し，35—40°N，150°E—180°の海区は減少，東北・伊豆諸島東方両海区，西部太平洋・南洋南部の170°E以西では増加が著しく，ソロモン以南漁場は減少がめだっている．体長測定船数は84と少数，全調査船を調査港別にみると，三崎90隻，東京149隻，焼津71隻であって，三崎と焼津では10月よりそれぞれ20隻程度多く，東京では約50隻減じている．

## 2. 漁況の概要

（キ　ハ　ダ）

初めて調査されたイースター海区と0—15°S，140—120°Wの海区は好漁，アルキペラゴ海区は不漁である．ミッドウェー海区ではやや漁獲があり，ハワイ南西海区5°N以北では好漁が得られているが，0—15°S，160—140°Wの海区とタヒチ海区は低く，サモア海区も比較的不漁である．伊豆諸島東方海区は好漁，西部太平洋の中部海域は低く，南洋北部中〜東部海域は高率，南洋南部各海域もおおむね好漁である．ソロモン海区は南部でやや低く，ニューカレドニア海区はおおむね好漁，ニュージーランド海区は不漁である．バンダ・フロレス海区，小スンダ・チモール海区，ジャワ沿海はいずれもおおむね好漁，スマトラ西岸沿海は不漁であるが濠洲西方海区はやや好漁の程度，中部印度洋海区北部では好漁が得られ，西部印度洋海区は低い．ギアナ東北海区は好漁である．

（メ　バ　チ）

イースター海区，0—15°N，140—120°Wの海区では好漁，カルキペラゴ海区は低く，30—40°N，180—140°Wの海区，ミッドウェー海区，ハワイ南西海区5°N以北の海域は好漁，0—15°S，160—140°Wの海区，タヒチ海区，サモア海区は不漁である．東経漁場では，35—40°N，150°E—180°の海区，30—35°N，150°E—180°の海区においてそれぞれ東部海域が比較的好漁，東北，伊豆諸島東方，南海の3海区では好漁が得られず，西部太平洋にては不漁である．南洋北部の中部から東部海区は好漁，南洋南部はおおむね好漁でソロモンとニューカレドニアの2海区は不漁，ニュージーランド海区は好漁を示している．バンダ・フロレス海区，ジャワ沿海，スマトラ西岸沿海においても好漁で，小スンダ・チモール海区，濠洲西方海区は比較的低率であった．中部印度洋，西部印度洋の両海区，大西洋漁場のギアナ東北海区も低い．

（ビ　ン　ナ　ガ）

イースター海区はやや好漁，0—15°S，140—120°Wの海区，アルキペラゴ海区はそれぞれ好漁，30—40°N，180°—140°Wの海区東部，ミッドウェー海区東部も好漁となった．0—15°S，160—140°Wの海区は高率となり，タヒチ海区はやや好漁，サモア海区は極めて好漁で，35—40°N，150°E—180°の海区および30—35°N，150°E—180°の海区，伊豆諸島東方海区は高率，東北海区，南海海区は低く，西部太平洋亜熱帯海区140—150°Eの海域は好漁，同海区150—160°Eの海域は低い．ソロモン海区10—15°Sではやや低く，ニューカレドニア海区においては160—170°Eの海域が好漁，ニュージーランド海区も北東部で好漁であった．小スンダ・チモール海区，ジャワ沿海においては不漁であったが，スマトラ西岸沿海，濠洲西方海区は好漁，中部印度洋および西部印度洋の両海区は極めて高率であった．ギアナ東北海区中部ではやや好漁であった．

（インドマグロ）

ニュージーランド海区ではこの海区としては低く，小スンダ・チモール海区も低率であった．ジャワ沿海海区ではやや好漁の程度で，濠洲西方海区も比較的低い．

（クロカワ）

イースター海区は不漁，0—15°S，140—120°Wの海区はまだ低く，アルキペラゴ海区は好漁であった．ハワイ南西海区5°N以北の海域では不漁，タヒチ海区とサモア海区も低く，30°N以北の諸海区は周年不漁，西部太平洋の2海域，南洋北部の3海域も低率であるが，南洋南部は一般にやや好漁，ソロモン海区，ニューカレドニア海区もやや好漁で，バンダ・フロレス海区は好漁ではなく，小スンダ，チモール海区，ジャワ沿海海区においてはこれらの海区としては好漁，スマトラ西岸沿海南部は不漁であり，濠洲西方海区も高率ではない．中部印度洋海区北部，西部印度洋海区中部海域はともに好漁であった．

（シロカワ）

ソロモン海区南西部は低く，ニューカレドニア海区は不漁となり，バンダ・フロレス海区はまだ低率，小スンダ・チモール海区はやや好漁，ジャワ沿海，スマトラ西岸沿海はやや低く，濠洲西方海区は低率である．

（マカジキ）

アルキペラゴ海区はイースター海区と同様にやや高く，30—40°N，180°—140°Wの海区，ミッドウェー海区はともに低率，タヒチ海区とサモア海区も低い．35—40°N，150°E—180°の海区は不漁で，30—35°N，150°E—180°の海区は減少し始め，東北，南海両海区は不漁，伊豆諸島東方海区，西部太平洋中部から東よりの海域ではやや好漁となった．ニューカレドニア海区では中部から西部にかけて好漁，ニュージーランド海区は低い．小スンダ・チモール海区，ジャワ沿海，スマトラ西岸沿海は不漁となり，濠洲西方海区は低率となりつつある．中部印度洋と西部印度洋とでは不漁であった．

（メカジキ）

35—40°N，150°E—180°の海区および30—35°N，150°—180°の海区は好漁となり，東北海区，伊豆諸島東方海区も好漁を示している．

### 3．各海区の漁況と海況

#### A　赤道以南140°W以東の漁場

（イースター海区，0—15°S，140—120°Wの海区アルキペラゴ海区）

12月のこの漁場においては，イースター海区が初めて調査され，同海区北部で1隻，0—15°S，140—120°Wの海区では11月とおおむね同様の海域で同数の6隻，さらにアルキペラゴ海区においても，11月と同じく海区北西部で4隻が操業している．漁場における表面水温は11月に変らず，海流は漁場図に示すとおりである．

（キハダ）

イースター海区北部のキハダは好漁で2.30，0—15°S，140—120°Wの海区でもやや好漁であるが，東部1.60，西部1.21と東部がやや高い．アルキペラゴ海区は好漁後の不漁で0.54の低率を示した．

イースター海区のキハダは非常に大型で151—160cmに48.3%がみられ，0—19°S，140—120°Wの海区では141—150cm，アルキペラゴ海区は151—160cmにそれぞれモードがあり，各海区とも大型である．

（メバチ）

イースター海区北部におけるメバチは極めて高率，0—15°S，140—120°Wの海区では11月より低いが東寄りの5隻は228とやや好漁，マーケサス諸島南方の海区南西部の1隻は低率0.69であった．また，アルキペラゴ海区は11月よりさらに減少して0.28と低下している．

イースター海区と0—15°S，140—120°Wの海区における体長組成は従来と同じく大型で，ともに151—160cmにモードがみられ，アルキペラゴ海区北西部では，131—140cmと151—160cmにそれぞれ第1，第2モードがあり，11月と同様に小型の多い傾向がみられる．

（ビンナガ）

イースター海区におけるビンナガは，この附近としては好漁1,58，0—15°S，140—120°Wの海区でも1,22の好漁，アルキペラゴ海区も好漁期に入って1.97と高率である．

（クロカワ）

イースター海区北部の10°S附近では0.30を示し，0—15°S，140—12°Wの海区0.33とほぼ同様で好漁ではなく，アルキペラゴ海区北西部は既に盛漁で1.29の高率である．

イースター海区のクロカワは附近海区と同様の体長組成をもっているようで，0—15°S，140—120°Nの海区においては191—200cmのモードは11月に変らないが，161—170cmに16.2%のモードがあらわれ，アルキペラゴ海区では181—190cmに33.5%があって11月と変らない．

（マ　カ　ジ　キ）

イースター海区北部では0.11，0—15°S，140—120°Wの海区は0.06とやや低く，アルキペラゴ海区北西部はイースター海区と同率0.11で盛漁期を過ぎ，この海区としては高率といえない．

この海区のマカジキは，東部太平洋の他海区，ニューカレドニア海区等と同じく大型で，151—160cmにモードがみられる．0—15°S，140—120°Wの海区とアルキペラゴ海区では，ともに11月よりやや小型となっている．

B　赤道以北180°—140°Wの漁場

（30—40°N，180°—140°Wの海区，ミッドウェー海区，ハワイ南西海区5°N以北の海域）

この漁場では，各海区とも11月に比較して調査船の増減がはなはだしい．30—40°N，180°—140°Wの海区の30°N線北側では，20隻から8隻に半減，ミッドウェー海区では30°N線南側とミッドウェー南側で22隻と倍増，ハワイ南西海区5°N以北の海域においても2隻から10隻に増加して，そのうち9隻が180°線附近で，1隻は10°N，170°W附近で操業している．漁場における表面水温，海区については漁場図を参照されたい．

（キ　ハ　ダ）

30—40°N，180°—140°Wの海区では周年低率，ミッドウェー海区北西部では0.52を示してこの海区としては好漁，ハワイ南西海区5°N以北では低率期であるが，180°附近で1.59の高率が得られた．

ミッドウェー海区においては121—130cmに第1モード，71—80cmに第2モードがあって11月とほぼ同様の組成を示し，ハワイ南西海区5°N以北では，111—120cmに53.5%のモードがあって10月に比較してこの体長範囲のものが増加している．

（メ　バ　チ）

30—40°N，180°—140°Wの海区の各海域30°N附近ではメバチの好漁が得られていて，11月と同じ傾向を示して東寄りに高く，160—150°Wの海域3.78，180°—170°Wの海域3.11であった．ミッドウェー海区も北部で好漁，特に170—160°Wの30°N線南側は4.58で高率となっている．ハワイ南西海区5°N以北も好漁期に向い，180°附近で2.69を示している．

30—40°N，180°—140°Wの海区170°W附近では，91—100cm36.7%，141—150cm17.8%と小型魚がはなはだ多く，ミッドウェー海区も同様の組成であり，ハワイ南西海区の180°—172°Wでは121—130cmにモードがあり，18.0%，10月よりやや大型となった．

（ビ　ン　ナ　ガ）

30—40°N，180°—140°Wの海区では，西部の30°N線北側で2.29が得られて東側は低率，ミッドウェー海区の北西部は0.89とやや高くなった．

30—40°N，180°—140°Wの海区とミッドウェー海区とにおけるビンナガは，従来と同様に大型で101—110cmのモードも変化ない．

（ク　ロ　カ　ワ）

30—40°N，180—140°Wの海区とミッドウェー海区では不漁，ハワイ南西海区5°N以北の海域は好漁期を過ぎて不漁期に入った．

ハワイ南西海区5°N以北では調査尾数が少かったが，161—170cmのモードは9，10月と変らず，141—150cmの小型にもモードがあられている．

（マ　カ　ジ　キ）

30—40°N，180°—140°Wの海区およびミッドウェー海区では11月と同様に低調な漁況が続いている．

ハワイ南西海区5°N以北では121—130cmに46.2%があって小型魚が多い．

C　赤道以南180°—140°Wの漁場

（0—15°S，160—140°Wの海区，タヒチ海区，サモア海区）

12月におけるこの漁場では，トンガ，チャタム両海区の調査船がなく，0—15°S，160—140°Wの海区とサモア海区では南部でそれぞれ1隻，タヒチ海区では北東部で大型船2隻を調査している．漁場における表面水温および海区については漁場図を参照されたい．

（キ　ハ　ダ）

0—15°S，160—140°Wの海区南部150°W附近は低率0.36，タヒチ海区北東部では11月と同様に低く0.36，サモア海区南東部では，11月の北東部における高率に比して激減1.55となった．

体長組成をみると，タヒチ海区において101—110cmに31.3%，121—130cmに19.3%とそれぞれ第1，第2モードがあり小型である．

（メ　バ　チ）

0—15°S，160—140°Wの海区南部は低率，タヒチ，サモア両海区も不漁期である．

体長組成はタヒチ海区についてのみ調査され，同海区のメバチは比較的大型である．

（ビ　ン　ナ　ガ）

0—15°S，160—140°Wの海区南部は3.34と好漁，タヒチ海区では好漁期にあって11月よりやや増加して1.54，サモア海区南東部は5.59と高率が得られている．

（ク　ロ　カ　ワ）

0—15°S，160—140°Wの海区は不漁，タヒチ海区北東部では好漁期で高率1.08，サモア海区では0.33を示し，この海区としては好漁である．

タヒチ海区におけるクロカワの体長組成は従来に比較して大きな変化なく，モードは11月よりやや小さく171—180cmにうつっている．

（マ　カ　ジ　キ）

0—15°S，160—140°Wの海区は0.10でこの海区としては高く，タヒチ海区も同率0.10であるが，この海区では10月の高率0.56から11月以来激減している．

タヒチ海区におけるマカジキは，従来の通り大型減ようである．

## D 北 部 太 平 洋 漁 場

（35—40°N，150°E—180°の海区，30—35°N，150°E—180°の海区，東北海区，伊豆諸島東方海区，南海海区，西部太平洋海区170°E以西）

11月より調査船数は減少して総計108隻となった．35—40°N，150°E—180°の海区では僅か7隻に減少，30—35°N，150°E—180°の海区もやや減じて51隻，東北海区と伊豆東方では激増してそれぞれ21隻，13隻となった．南海海区南部では2隻で変らないが，西部太平洋170°E以西の中部においては14隻に増加している．例年に比して，東北，伊豆東方両海区と30—35°N，150°E—180°の海区中部から東部海区において多数の船が調査されている．

（キ　ハ　ダ）

西部太平洋140—150°Eの海域南東部は1.04と高く，150—160°Eの南西部は0.43で低い．

この漁場の30°N以北の海区におけるキハダは比較的大型で，30—35°N，150°E—180°の海区では131—150cmに56.6%のモードがみられ，伊豆東方，西部太平洋では111—130cm附近にモードがあって前者よりやや小さい．

（メ　バ　チ）

35—40°N，150°E—180°の海区は好漁の末期となり，11月と同じく東寄りに高率，170°E—180°の海域が最も高く0.94であった．30—35°N，150°E—180°の海区でも好漁末期で，35—40°N，150°E—180°の海区と同傾向であった．東北海区のメバチは0.61，伊豆東方は0.63でいずれも好漁である．南海海区南部は0.40でやや低く，西部太平洋では，150°E附近の南部東側で好漁1.17を示した．

体長組成をみると，35—40°N，150°E—180°の海区と30—35°N，150°E—180°の海区においては，第1モードは91—100cmと111—120cm，第2モードはともに141—150cmにあって11月に変らず比較的小型のものが多く，東北海区と伊豆東方海区にては141—150cmと111—120cmにそれぞれ第1，第2モードがあり，さらに南海海区は91—100cmに26.2%があって110cm以下のものが非常に多く，西部太平洋海区の中部西寄りでは，121—130cmに

23.8%のモードがみられて，おおむね11月と同じく本年1月頃と同様の組成を示している.

（ビ ン ナ ガ）

35—40°N，150°E—180°の海区は好漁末期，30—35°N，150°E—140°の海区は盛漁期にあり，前者は150—160°Eと170°E—180°の海域が高く，それぞれ2.59，1.88，後者は160—170°Eと170°E—180°の2海域が高く，それぞれ2.17，2.85であった．東北海区のビンナガは11月より減じて低く，伊豆諸島東方は好漁前，南海海区では好漁前期と思われ，10月，11月の低率より0.78と上昇した．西部太平洋の140—150°Eの海域は好漁期に入って上昇中で2.04，150—160°Eの海域では0.71でまだ低い.

35—40°N，150°E—180°の海区では，11月より小型魚が増加してモードも81—90cmにうつっている．30—35°N，150°E—180°の海区は11月と変らず従来と同様，東北海区は最も小型となり，71—80cmに73.9%のモードがある．伊豆諸島東方海区のモードは11月に変らず，南海海区南部では大型となって101—110cmに53.5%のモードがみられ，西部太平洋30°N，140—145°E附近では91—100cmにモードがうつってやや小型となっている.

（ク ロ カ ワ）

各海区とも低率不漁である.

体長組成をみると，30—35°N，150°E—180°の海区では従来と同様に中型が多く，201—210cmのモードも11月と変らない.

（マ カ ジ キ）

35—40°N，150°E—180°の海区は，10月，11月の好漁から低下して150—160°Eの海域における0.11が最も高く，30—35°N，150°E—180°の海区においても漁獲は低下して，160—170°Eと170°E—180°の海域が0.10を示したにとどまった．ともに好漁の末期である．東北海区と伊豆東方にてはそれぞれ減少しているが，後者は0.13でまだ高い．南海海区は不漁で，西部太平洋の2海域はやや低くなった.

体長組成をみると，30—35°N，150°E—180°の海区，伊豆東方の2海区ともモードは131—140cmにあって，昨年よりやや小型であるが11月と同様，南海海区と西部太平洋170°E以西140—145°Eの海域においては，前二者より小型で11月とほぼ同様，西部太平洋140—145°Eでは131—140cmにモードがうつっている.

（メ カ ジ キ）

35—40°N，150°E—180°の海区．30—35°N，150°E—180°の海区はメカジキの好漁期であり，ともに釣獲率の上昇がみられて前者は東寄りに高く，160—170°Eは0.80，170°E—180°は0.98であった．また，30—35°N，150°E—180°の海区は西寄りに高率となって，150—160°Eの海域は0.62，160—170°Eの海域は0.29であった．東北海区においては0.57と高率，伊豆諸島東方も0.36でやや高く，なお上昇が期待されている．南海海区は不漁であり西部太平洋の2海区も同様に低い.

35—40°N，150°E—180°と30—35°N，150°E—180°の両海区においては，いずれもその体長組成はほとんど11月と変らず，181—190cmに第1モード，101—130cmに第2モードがあり，後者では91—100cmに第3モードがあって前者より小型である．東北，伊豆東方，南海の3海区も11月とほぼ同様の傾向にあるようで，100—130cm程度の小型魚と181cm以上の大型魚が多くみられる．昨年，一昨年の同時期と比較して大型魚の多い傾向にある.

E 旧南洋庁沿海漁場

（南洋北部170°E以東および以西，南洋南部170°E以東および以西）

南洋北部と南洋南部170°E以東においては，ほとんど調査船数の変化はないが，南部170°E以西の5°N以北海域では11月より倍増して70隻となった．12月のこの漁場における調査船総計は79隻であった．各海区，各海域における調査船の操業位置，表面水温，海流については漁場図を参照されたい.

（キ ハ ダ）

南洋北部の150°E以東海域10°N線北側の漁場は，いずれも好漁期にあって各船は高率を得ている．南部諸海域も盛漁期で5°N以北以南の調査船はすべて好漁である．130—150°Eの海域は5°N以北が高く，150—170°Eの海域では5°N以南が高い.

北部170°E以東，南部170°E以東および以西とも組成のモードは111—120cmにあって11月と同様の傾向を示し，従来に比較して大きな変化はない.

（メ　バ　チ）

南洋北部150°E以東の10°N線北側漁場は好漁期に入って各海域とも高率，特に170°E—180°が2.01で高い．南部各海域もおおむね好漁で5°N以北が以南より高率，150—160°Eの海域が最も高く1.58，160°E以東の2海域も1.50と高い．この好漁はしばらく続くであろう．

南洋北部では160°E附近と175—179°Eの両海域において131—140cmにモードがあり，南部の133—168°Eでは，主として5—10°Nにおいて北部諸海域と同じく131—140cmにモードがみられ，従来に比較して大きな変化はない．

（ク　ロ　カ　ワ）

北部では好漁期を終って各海域とも減少を始めた模様で，特に150—160°Nでは0.12と低い．南部海区各海域も好漁後期に入ったようで，5°N以北がやや高い傾向が見られ，160°E東側附近が0.26と最も高い程度である．暫く低調な漁況が続くであろう．

南洋北部および南部では他海区に比して小型で従来と同様，調査尾数の少なかった北部もモードは11月と同じく，南部各海域も11月と同様の組成であり，それぞれ161—170cm，141—150cmにモードがみられる．

（マ　カ　ジ　キ）

南洋北部の150°E以東，10°N線北側におけるマカジキは，160°E以東でやや増加しているが0.1前後で低い．

この漁場におけるマカジキは小型であり，南洋北部175°E—180°と南部140—165°Eは111—120cm，北部156—158°Eでは121—130cmにそれぞれモードがあって昨年同期より小型である．

## F　ソロモン以南漁場

（ソロモン海区，ニューカレドニア海区，ニュージーランド海区）

ソロモン海区では10—15°Sの西部で6隻がまとまって調査されたほかほとんど操業船なく，ニューカレドニア海区では海区中部および西部北寄りで13隻，ニュージーランド海区では，ノース・アイランドの北岬附近で1隻を調査したにとどまった．11月に比較すれば，調査船数はソロモン海区で激減，ニューカレドニア海区でも著しく減少，ニュージーランド海区では変化ない．表面水温，海区については漁場図を参照されたい．

（キ　ハ　ダ）

ソロモン海区10—15°Sの海域では，11月のこの附近漁場とほぼ同様で1.91ニューカレドニア海区の各海域は，それぞれ11月よりやや増加して，特に150—160°Eの中部が2.05を示して最も高い．ニュージーランド海区では，10月に北西部で非常な高率が得られた後好漁はなく，ノース・アイランド北部近海では極めて不漁である．

ソロモン海区の体長組成をみると，121—130cmと141—150cmにそれぞれ第1，第2モードがあり，ニューカレドニア海区も同様の組成を示していて，141—150cmの体長範囲のものが11月よりやや増加している．

（メ　バ　チ）

ソロモン海区10—15°S西部のメバチは0.12で，この海区としてもやや低率である．ニューカレドニア海区は好漁末期となって，どの海域も不漁であるが，一方，好漁期に入ったニュージーランド海区では1.88，ノース・アイランド北岬附近の漁場としては盛漁である．

体長組成はソロモン海区においては2—14°S，161—162°Eで操業した1隻の分を調査したが，調査尾数が極めて少く僅か4尾に過ぎなかった．ニューカレドニア海区では101—110cmと151—160cmにそれぞれ18.9%，131—140cmに13.5%があり，従来に比して小型のものが増加している．

（ビ　ン　ナ　ガ）

ソロモン海区南西部においてはと1.16低く，2—14°S，161—162°Eの1隻は1.91とやや高い．ニューカレドニア海区においても好漁末期で各海域とも11月より減少の傾向にあり，160—170°Eの中部以北が平均釣獲率2.13とやや高かったほか，150—160°Eの海域は0.98の低率を示した．ニュージーランド海区北東部は盛漁期であるが，11月より半減して1.44となっている．

（インドマグロ）

ニュージーランド海区のインドマグロは，好漁末期にあって11月まで減少が続いたが，12月には2.35とやや回復した．この海区では不漁期となるであろう．

(ク　ロ　カ　ワ)

ソロモン海区10—15°Sの西部では0.33と好漁，ニューカレドニア海区では好漁前で160—170°E 0.20，150—160°E0.12に増加している．

体長組成をみると，ソロモン海区の中部—東部では，従来通り南洋南部と同様に小型が多く，ニューカレドニア海区においても組成は11月とほとんど変らずモードも同様であるが，9月以来大型のものが減少している．

(シ　ロ　カ　ワ)

ニューカレドニア海区のシロカワは，11月の140—150°Eの海域における好漁から急激に減少して平均0.08となった．

体長組成をみると，ニューカレドニア海区において181—190cmのモードは11月に変らないが，251cm以上のものが22.9%を示し，11月より増加している．

(マ　カ　ジ　キ)

ニューカレドニア海区のマカジキは好漁期であるが，好漁後期に入る模様であり，150—160°Eは0.62，160—170°Eは0.60であった．ニュージーランド海区では，10月北西部でやや好漁があったが，北東部における12月の率は0.02で低い．

ニューカレドニア海区における体長組成をみると，161—170cmに41.5%のモードがあって11月と同様，昨年，一昨年より小型の傾向がうかがわれる．

G　東　部　印　度　洋　漁　場

(バンダ・フロレス海区，小スンダ・チモール海区，ジャワ沿海，スマトラ西岸沿海，濠洲西方海区)

バンダ・フロレス海区では，ブル島とセラム島附近で小型船と大型船がそれぞれ1隻調査され，小スンダ・チモール海区では海区南西部で8隻，ジャワ沿海においては10°S附近で8隻，さらにスマトラ西岸沿海の南部で2隻，濠洲西方海区では北寄りに東部で2隻，西部で8隻，中部で3隻で合計13隻，この海区における12月の調査船総計は33隻で11月より増加している．

表面水温，海流については漁場図を参照されたい．

(キ　ハ　ダ)

バンダ・フロレス海区では2.24，この海区としては高率といえないが10月以来やや好漁の状態が続いている．小スンダ・チモール海区も冬季の好漁を示すようで，12月は1.25と増加した．1月もこの程度の率が見込まれる．ジャワ沿海海区では不漁ではないが，11月より低下して1.55を示している．暫くの間はこの程度の漁況が続くであろう．スマトラ西岸沿海海区においては南部で0.92となって，従来この海区ではみられなかった低率を示している．濠洲西方海区では11月に低率であったが，12月には平均1.14を示し，特に海区北東部の2隻は2.68と高率である．

体長組成をみると，小スンダ・チモール海区では，121—130cmと141—150cmに第1，第2モードがあってソロモン以南漁場と同様の組成を示し，濠洲西方海区中部北西寄りでは141—150cmに49.2%があって昨年2月および11月と同じ傾向を示している．

(メ　バ　チ)

バンダ・フロレス海区のメバチは減少過程にあり，10月から漸減して1.06となった．この附近ではさらに減じて不漁となるであろう．小スンダ・チモール海区の西部においては，10月から漸増しつつあるが0.44とまだ不漁．ジャワ沿海においては好漁後期で漸減過程にあり1.03とやや低い．スマトラ西岸沿海はまだ好漁期にあり，11月より僅か低下して12月は1.61を示していて，一昨年までの高率は得られないようである．濠洲西方漁区では，好漁期を過ぎ不漁となりつつある．

バンダ・フロレス海区においては比較的小型のものがやや増加し，濠洲西方海区においては131—140cmに28.0%，101—110cmに13.1%の第1，第2モードがあり，従来に比較して小型が多い．

(ビンナガ，インドマグロ)

ビンナガは，小スンダ・チモール海区では不漁期にあり当分低率が続くであろう．ジャワ沿海においても0.72と低いが，スマトラ西岸沿海と濠洲西方海区は好漁期で，前者は1.77，後者は3.83とそれぞれ高率である．前者では31年1月以来，2.0を越す高率は得られていない．

インドマグロは，小スンダ・チモール海区西部において秋季の好漁後の低率1.44を示し，ジャワ沿海では10°S以南で0.57と低い．濠洲西方海区は好漁前期と思われるが北西部では漁獲少く，中部北寄りで1.88の好漁があった．北東部では0.13と非常に低く，この海区北部海域の中部から東部にかけての漁獲は，11月に比して減少している．

インドマグロの体長組成をみると，小スンダ・チモール．ジャワ沿海，濠洲西方の三海区とも151—160cmにモードがあり，濠洲西方海区では11月よりやや大型となっているが，従来の傾向に比較していずれも大きな変化はない．

（ク　ロ　カ　ワ）

バンダ・フロレス海区のクロカワは，11月よりさらに低下して0.09を示し，10月より漸減が続いている．小スンダ・チモール海区では，9月以来の率0.09より僅か増えて0.13，ジャワ沿海の10°S以南では0.19を示て11月よりやや減じ，スマトラ西岸沿海南部では0.11と低く，この海区では春まで好漁は望めないであろう．濠洲西方海区においては，北西部が0.21を示して最も高い程度であり11月と同様，海区平均釣獲率は0.16であった．

小スンダ・チモール，ジャワ沿海，濠洲西方の三海区ともモードは161—170cmにあり，濠洲西方海区が11月よりやや小型となっているほか，特にめだった変化はなく，いずれも大型魚の少い組成であった．

（シ　ロ　カ　ワ）

バンダ・フロレス海区においては近く好漁期に入るものと思われる．12月は10月から漸増の傾向を示しているがまだ低率である．小スンダ・チモール海区の西部は10月の好漁0.34から漸減を続けて0.21，ジャワ沿海10°S附近も不漁，スマトラ西岸沿海南部では0.11，濠洲西方海区では北東部で0.34の好漁が得られたほか，他海域は低率であった．

体長組成をみると，バンダ・フロレス，小スンダ・チモール，ジャワ沿海の三海区の調査尾数は少いが，従来と異なった傾向は感ぜられず，濠洲西方海区では中型から大型のものが増加して191—200cmに第1モード，151—160cmに第2モードがあらわれている．

（マ　カ　ジ　キ）

バンダ・フロレス海区のマカジキは低く，小スンダ・チモール海区では10月の好漁後は不漁が続く模様で12月は0.06の低率，ジワャ沿海では11月より半減，スマトラ西岸沿海南部も不漁であったが，濠洲西方海区は好漁末期で海区中部北寄りが0.35，北東部は0.22を示していた．

濠洲西方海区における体長組成をみると，10月，11月と同じく131—140cmに43.4%があって，従来より小型魚の多い傾向が続いている．小スンダ・チモール海区，ジャワ沿海区においても小型が多い．

## H　中西部印度洋漁場

（中部印度洋海区，西部印度洋海区）

この漁場における12月の調査海区は上記2海区にとどまり，前者では北部，後者では海区中部のマダガスカル島東方海域でそれぞれ5，7隻が操業している．西部印度洋海区中部の東側における海流は不定であるが，西側においてはおおむね西流であった．調査船は2海区ともすべて大型船である．漁場水温は11月と変らない．

（キ　ハ　ダ）

中部印度洋海区北部附近におけるキハダは好漁期にあり，東側，西側とも好漁で平均2.79，西部印度洋海区中部においては，不漁期にあるようで海区平均1.29を示し，この海区としては極めて低い．漁場位置の東西による漁況の差をみると，東側は0.99，西側は1.83で11月と同じ傾向にある．

体長組成は西部印度洋海区においてのみ調査されているが，大型を示した10月の組成よりはるかに小さく，第1モードは121—130cm，第2モードは141—150cmにみられた．

（メ　バ　チ）

中部印度洋海区北部においては全般的に不漁であるが，東側の1隻は1.07と好漁，西側の4隻は0.15と極めて低率である．西部印度洋海区では，8月以来の不漁がなお続き，中部の東西とも全く低率であった．

西部印度洋海区中部におけるメバチの体部組成は，131—140cmに29.4%の第1モードがみられ，最近の傾向とほとんど変らないが僅か小型である．

（ビ　ン　ナ　ガ）

中部印度洋海区北東部は11月高率4.57を示したが，12月は1.39の不漁となり，西部印度洋海区における8月以来

の高率は依然として変らず，マダガスカル東方漁場は東側西側とも好漁で，釣獲率はそれぞれ8.55，7.41と高率である.

（クロカワ）

中部印度洋海区のクロカワは，11月よりさらに増加して0.31，北東部より北西部が高く0.35であった．西部印度洋海区のマダガスカル島東方漁場においては，11月と異なって東側，西側ともほとんど同率で0.45，0.55を示し好漁である.

この漁場におけるクロカワの体長組成は西部印度洋海区についてのみ調査され，171—180cmにモードがあって中大型魚が多い.

（マカジキ）

中部印度洋海区では11月に続いて不漁で同率0.08，西部印度洋海区中部海域も不漁である.

体長組成は西部印度洋海区にて調査され，調査尾数は少なかったが小型のものが多く，一昨年同様の傾向を示して昨年同期より小型である.

## I 大西洋漁場

（ギアナ東北海区）

12月の大西洋漁場においては，ギアナ東北海区の中部で大型船1隻を調査したに過ぎない．表面水温は11月のアマゾン海区よりやや高く，海流はおおむね西流であるが南—南西流および東流も観測された．この海区の調査船は，水揚地の都合によりキハダ，ビンナガ，メカジキ以外の魚種を投棄しているので，漁況調査は上記三魚種のみにとどまった．体長組成については調査できなかった.

（キハダ）

この海区のキハダは周年好漁で，時によって漁獲の変動は大きいが，12月は海区中部で7.91の好漁である.

（メバチ，ビンナガ，クロカワ）

ギアナ東北海区におけるメバチは，この附近漁場の他海区と同様に年を通じて好漁は得られない．12月の漁況は不明であるが低率であろうと推察される.

ビンナガは10月と変らず0.91が得られ，この海区としてはやや好漁であろう.

この海区におけるクロカワも周年不漁，12月の漁況はメバチと同様に不明であるが，0.1前後の低率であろうと思われる.

この資料は，南海区水研と神奈川県水試が委託調査船310隻より集め，これを統計的に分離したものである.

# 月別、漁場別、鮪類漁獲調査表

| 漁場 | 操業区域 | 調査隻数 | 体長測定船数 | 水温(C°) | 流向<br>流速 | 操業回数 | 漁具数 | 鈎数 | きはだ | めばち |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| イースター | 10—13S<br>111—109W | 1 | 1 | 24.8<br>25.3 | E, ENE<br>0.2, 0.5 | 26 | 11440 | 45760 | 1053<br>2.30 | 2072<br>4.53 |
| 0—15S<br>140 120W | 5—16S<br>141—119W | 6 | 4 | 24.9<br>27.4 | | 147 | 61368 | 293768 | 4520<br>1.54 | 5924<br>2.02 |
| アルキペラゴ | 17—21S<br>140—134W | 4 | 2 | 23.8<br>27.8 | | 73 | 30746 | 132946 | 713<br>0.54 | 375<br>0.28 |
| 30—40N<br>180—140W | 29—32W<br>174—145W | 8 | 1 | 17.6<br>21.3 | | 133 | 49006 | 224254 | 25<br>0.01 | 8078<br>3.60 |
| ミッドウエー | 24—31N<br>179—159W | 22 | 5 | 18.5<br>26.9 | | 364 | 121585 | 543991 | 1580<br>0.2[illegible] | 17215<br>3.1[illegible] |
| ハワイ南西<br>(5°N以北) | 6—13N<br>179E—168W | 10 | 4 | 26.3<br>29.1 | | 163 | 61229 | 26[illegible]930 | 4083<br>1.55 | 6979<br>2.64 |
| 0—15S<br>160—140W | 12—14S<br>152—149W | 1 | 0 | 27.6<br>28.9 | | 8 | 2960 | 11840 | 43<br>0.36 | 16<br>0.14 |
| タヒチ | 17—22S<br>149—140W | 2 | 1 | 24.6<br>27.2 | | 34 | 14589 | 57038 | 359<br>0.63 | 71<br>0.12 |
| サモア | 12—14S<br>167—163W | 1 | 0 | 28.8<br>29.8 | | 8 | 2960 | 11840 | 183<br>1.55 | 18<br>0.15 |
| 35—40N<br>150E—180 | 34—38N<br>157—175E | 7 | 1 | 16.6<br>21.8 | | 68 | 22385 | 101394 | 50<br>0.05 | 905<br>0.89 |
| 30—35N<br>150E—180 | 30—36N<br>149—179E | 51 | 4 | 17.3<br>23.0 | | 605 | 168611 | 936531 | 259<br>0.03 | 7018<br>0.75 |
| 東北 | 34—39N<br>142—152E | 21 | 3 | 17.2<br>21.8 | | 192 | 35052 | 206446 | 43<br>0.02 | 1255<br>0.61 |
| 伊豆東方 | 32—36N<br>145—151E | 13 | 5 | 17.5<br>22.8 | | 94 | 18312 | 93187 | 17<br>0.02 | 584<br>0.63 |
| 南海 | 29—31N<br>134—137E | 2 | 2 | 22.2<br>23.9 | | 32 | 5880 | 42000 | 10<br>0.02 | 169<br>0.40 |
| 西部太平洋<br>(170°E以西) | 21—31N<br>141—161E | 14 | 2 | 20.0<br>27.0 | | 192 | 43549 | 276907 | 497<br>0.18 | 825<br>0.30 |
| 南洋北部<br>(170°E以東) | 10—12N<br>175—179E | 2 | 2 | 27.2<br>27.9 | | 30 | 11257 | 52248 | 822<br>1.57 | 1048<br>2.01 |
| 南洋北部<br>(170°E以西) | 10—11N<br>156—164E | 3 | 0 | 27.5<br>28.5 | | 22 | 8705 | 34820 | 919<br>2.64 | 523<br>1.50 |
| 南洋南部<br>(170°E以東) | 7—10N<br>176—180E | 4 | 2 | 28.0<br>28.9 | | 27 | 9659 | 42380 | 952<br>2.25 | 630<br>1.49 |
| 南洋南部<br>(170°E以西) | 0—10N<br>130—168E | 70 | 22 | 27.6<br>30.8 | | 884 | 319072 | 152647[illegible] | 32861<br>2.15 | 20269<br>1.33 |
| ソロモン | 2—14S<br>144—163E | 8 | 2 | 26.7<br>29.5 | | 82 | 31063 | 148027 | 2785<br>1.88 | 212<br>0.14 |
| ニューカレドニア | 15—24S<br>146—171E | 13 | 9 | 24.0<br>28.6 | | 263 | 103683 | 450707 | 8253<br>1.83 | 333<br>0.07 |
| ニュージーランド | 33—34S<br>172—173E | 1 | 0 | 18.5<br>19.5 | | 9 | 2940 | 14700 | 13<br>0.09 | 277<br>1.88 |

# (1958年12月操業分)

(別表1) A

| ぐ | ろ | | か | じ | き | | | かつお | 雑 | さめ | 計 | 記事 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| びんなが | くろ鮪 | いんど鮪 | くろかわ | しろかわ | まかじき | めかき | ばしよう | | | | | |
| 722 | | | 137 | 15 | 49 | 41 | | | | | 4089 | |
| 1.58 | | | 0.30 | 0.03 | 0.11 | 0.09 | | | | | | |
| 3596 | | | 956 | 65 | 173 | 98 | 3 | 282 | 698 | 623 | 16938 | |
| 1.22 | | | 0.33 | 0.02 | 0.06 | 0.03 | 0.00 | 0.10 | 0.24 | 0.21 | 5.77 | |
| 2621 | | 1 | 1715 | 21 | 140 | 17 | 7 | | 283 | 122 | 6015 | |
| 1.97 | | 0.00 | 1.29 | 0.02 | 0.11 | 0.01 | 0.01 | | 0.21 | 0.09 | 4.52 | |
| 1492 | 1 | | 30 | | 66 | 42 | 9 | 240 | 69 | 217 | 10260 | |
| 0.67 | 0.00 | | 0.01 | | 0.03 | 0.02 | 0.00 | 0.11 | 0.03 | 0.10 | 4.58 | |
| 4443 | 3 | | 44 | 2 | 485 | 145 | 2 | 404 | 469 | 279 | 25071 | |
| 0.82 | 0.00 | | 0.01 | 0.00 | 0.09 | 0.03 | 0 00 | 0.07 | 0.09 | 0.05 | 4.61 | |
| 113 | | | 287 | 14 | 231 | 8 | 11 | 235 | 118 | 82 | 12161 | |
| 0.04 | | | 0.11 | 0.01 | 0.09 | 0.00 | 0.00 | 0.09 | 0.04 | 0.03 | 4.61 | |
| 396 | | | 28 | | 12 | | | | 11 | | 506 | |
| 3.34 | | | 0.24 | | 0.10 | | | | 0.09 | | | |
| 880 | | | 616 | 4 | 54 | 4 | 5 | | 17 | | 2010 | |
| 1.54 | | | 1.08 | 0.01 | 0.10 | 0.01 | 0.01 | | 0.30 | | | |
| 662 | | | 39 | | 1 | 918 | | | 2 | | 905 | |
| 5.59 | | | 0.33 | | 0.01 | 0.02 | | | 0.02 | | | |
| 1752 | 169 | | 1 | | 21 | 2773 | 1 | 17 | 214 | 344 | 4392 | |
| 1.73 | 0.17 | | 0.00 | | 0.02 | 0.30 | 0.00 | 0.02 | 0.21 | 0.34 | 4.33 | |
| 19770 | 174 | | 31 | 2 | 839 | 1178 | | 928 | 1070 | 3547 | 36411 | |
| 2.11 | 0.02 | | 0.00 | 0.00 | 0.09 | 0.57 | | 0.10 | 0.11 | 0.38 | 3.89 | |
| 1995 | 4 | | 1 | | 109 | 332 | 1 | 16 | 190 | 5379 | 10171 | |
| 0.97 | 0.00 | | 0.00 | | 0.05 | 0.36 | 0.00 | 0.01 | 0.09 | 2.61 | 4.93 | |
| 218 | 1 | | 5 | | 118 | 332 | | 40 | 71 | 1746 | 3132 | |
| 0.23 | 0.00 | | 0.01 | | 0.13 | 0.36 | | 0.04 | 0.08 | 1.87 | 3.36 | |
| 328 | | | | 2 | 12 | 33 | | | 5 | 131 | 690 | |
| 0.78 | | | | 0.00 | 0.03 | 0.08 | | | 0.01 | 0.31 | 1.64 | |
| 4232 | | | 30 | 1 | 483 | 155 | 2 | 182 | 242 | 981 | 7630 | |
| 1.53 | | | 0.01 | 0.00 | 0.17 | 0.06 | 0.00 | 0.07 | 0.09 | 0.35 | 2.76 | |
| 55 | | | 131 | 1 | 43 | 3 | | | 5 | 5 | 2113 | |
| 0.11 | | | 0.25 | 0.00 | 0.08 | 0.01 | | | 0.01 | 0.01 | 4.04 | |
| 3 | | | 70 | 1 | 26 | | 5 | | 10 | | 1557 | |
| 0.01 | | | 0.20 | 0.00 | 0.07 | | 0.01 | | 0.03 | | | |
| 17 | | | 57 | 3 | 21 | | 3 | 84 | 13 | 2 | 1782 | |
| 0.04 | | | 0.13 | 0.00 | 0.05 | | 0.00 | 0.20 | 0.03 | 0.00 | 4.20 | |
| 178 | | | 3187 | 119 | 204 | 93 | 974 | 496 | 612 | 1117 | 60110 | |
| 0.01 | | | 0.21 | 0.01 | 0.01 | 0.01 | 0.06 | 0.03 | 0.03 | 0.07 | 3.94 | |
| 1691 | | | 500 | 84 | 16 | 16 | 123 | | 25 | 75 | 5527 | |
| 1.14 | | | 0.34 | 0.06 | 0.01 | 0.01 | 0.08 | | 0.02 | 0.05 | 3.73 | |
| 5795 | 1 | | 622 | 380 | 2781 | 137 | 107 | 48 | 908 | 345 | 19710 | |
| 1.29 | 0.00 | | 0 14 | 0.08 | 0.62 | 0.03 | 0.02 | 0.01 | 0.20 | 0.08 | 4.37 | |
| 212 | | 346 | | | 3 | | | | | | 851 | |
| 1.44 | | 2.35 | | | 0.02 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| バンダ<br>フロレス | 2— 7S<br>123—132E | 2 | 1 | 27.4<br>30.5 | | 26 | 10242 | 47184 | 1059<br>2.24 | 500<br>1.06 |
| 小スンダ<br>チ・ール | 9— 15S<br>114—121E | 8 | 2 | 28.0<br>30.7 | | 102 | 37601 | 179709 | 2253<br>1.25 | 792<br>0.44 |
| ジャワ沿海 | 9— 13S<br>106—114E | 8 | 1 | 27.0<br>30.5 | | 93 | 36089 | 164402 | 2552<br>1.55 | 1695<br>1.[illegible]3 |
| スマトラ<br>西岸 | 8— 10S<br>92—100E | 2 | 0 | 27.5<br>28.8 | | 22 | 9188 | 45940 | 424<br>0.92 | 739<br>1.61 |
| 濠洲西方 | 10— 24S<br>91-115E | 13 | 5 | 21.5<br>29.5 | | 185 | 76002 | 355434 | 4055<br>1.14 | 1528<br>0.43 |
| 中部印度洋 | 4— 18S<br>72— 88E | 5 | 0 | 25.4<br>29.9 | | 70 | 29387 | 142271 | 39[illegible]3<br>2.79 | 514<br>0.36 |
| 西部印度洋 | 17— 22S<br>50— 67E | 7 | 3 | 24.9<br>28.3 | | 163 | 69542 | 33[illegible]9[illegible] | 4349<br>1.29 | 247<br>0.07 |
| ギアナ東方 | 7— 9N<br>48— 42W | 1 | 0 | 27.4<br>29.1 | | 20 | 8000 | 40000 | 3165<br>7.91 | |
| 合計 | 30 | 310 | 84 | | | 4137 | 1412102 | 6822521 | 80860<br>1.19 | 80811<br>1.19 |

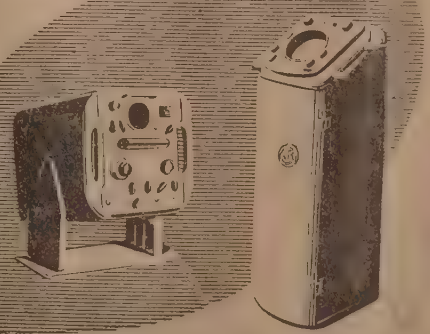

能率的な航海は

信頼出來る計器で

スペリー式

マリン・レーダー

マリン・ロラン



株式会社東京計器製造所

本社工場　東京都大田区東蒲田4の31　電話(73) 2211～9

出張所及びサービスステーション　神戸．函館．長崎．横浜　名古屋．下関

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 42 | 96 | 15 | 18 | 72 | 12 | 70 | 142 | 2026 |
| | | | 0.09 | 0.20 | 0.03 | 0.04 | 0.15 | 0.03 | 0.15 | 0.30 | 4.29 |
| 288 | | 2583 | 225 | 381 | 100 | 50 | 27 | 2 | 38 | 67 | 6806 |
| 0.16 | | 1.44 | 0.13 | 0.21 | 0.06 | 0.03 | 0.02 | 0.00 | 0.02 | 0.04 | 3.79 |
| 1176 | | 934 | 320 | 275 | 120 | 34 | 29 | | 25 | | 7160 |
| 0.72 | | 0.57 | 0.19 | 0.13 | 0.07 | 0.02 | 0.02 | | 0.02 | | |
| 813 | | | 48 | 52 | 30 | 7 | 6 | | 2 | | 2121 |
| 1.77 | | | 0.10 | 0.11 | 0.07 | 0.02 | 0.01 | | 0.00 | | |
| 13607 | | 2193 | 568 | 516 | 622 | 63 | 56 | | 239 | 16 | 23463 |
| 3.83 | | 0.62 | 0.16 | 0.15 | 0.17 | 0.02 | 0.02 | | 0.07 | 0.00 | 6.60 |
| 6003 | | | 443 | 110 | 111 | 18 | 43 | | 54 | 101 | 11360 |
| 4.22 | | | 0.31 | 0.08 | 0.08 | 0.01 | 0.03 | | 0.04 | 0.07 | 7.98 |
| 27388 | | | 1838 | 154 | 87 | 52 | 119 | 78 | 307 | 264 | 34883 |
| 8.14 | | | 0.55 | 0.05 | 0.03 | 0.02 | 0.04 | 0.02 | 0.09 | 0.08 | 10.37 |
| 364 | | | | | | 2 | | | | | 3531 |
| 0.91 | | | | | | 0.01 | | | | | |
| 100810 | 353 | 6057 | 11971 | 2298 | 6972 | 6237 | 1605 | 3064 | 5758 | 15585 | 323381 |
| 1.48 | 0.01 | 0.09 | 0.18 | 0.03 | 0.10 | 0.09 | 0.02 | | | | |


最高の技術……永い信用◁

営業種目

高級無線通信機　ラジオヒーター
船舶用無線機　放送施設一式
高級無線用測定器　極超短波通信機
超短波通信機　ビーコン装置
VHF新聞通信社用

國際電氣株式會社

取締役社長　山下知二郎

本社・工場　東京都北多摩郡狛江町和泉150　電話砧(41)(代)7171—9番
電話武蔵調布472番
東京営業所　東京都港区芝西久保桜川町9　電話芝(43)代表7373—9番
大阪出張所　大阪市北区中之島2の25(江商ビル508号室)　電話北浜(23)4553番
福岡出張所　福岡市天神町55(伊藤ビル)　電話中(4)2589・8198番

# 月別、漁場別、鮪類体長組成表（1958年12月操業分）

（別表 2）

| 魚種 | 測定船数 | 漁場 | 操業位置 | 操業回数 | 50 cm 以下 | 51—60 | 61—70 | 71—80 | 81—90 | 91—100 | 101—110 | 111—120 | 121—130 | 131—140 | 141—150 | 151—160 | 161—170 | 171 cm 以上 | | 漁獲尾数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| き | 1 | イースター | 10—13S<br>111—109W | 26 | | | | | | | | | 1 | 4 | 53 | 71 | 13 | 5 | 147 | 1053 |
| | | | | | | | | | | | | | 0.7 | 2.7 | 36.1 | 48.3 | 8.8 | 3.4 | 100 | |
| | 3 | 0—15S<br>140—120W | 5—16S<br>141—119W | 91 | | | | | | 1 | 4 | 22 | 22 | 52 | 133 | 61 | 14 | 9 | 318 | 2902 |
| | | | | | | | | | | 0.3 | 1.3 | 6.9 | 6.9 | 16.4 | 41.8 | 19.2 | 4.4 | 2.8 | 100 | |
| | 1 | アルキペラゴ | 20—21S<br>140—134E | 23 | | | | | | | | | 1 | | 5 | 10 | | 2 | 18 | 255 |
| | | | | | | | | | | | | | 5.6 | | 27.8 | 55.6 | | 11.1 | 100 | |
| | 1 | 30—40N<br>180—140W | 29—31N<br>172—168W | 11 | | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | 1 |
| | | | | | | | | | | | | | | | 100 | | | | 100 | |
| | 2 | ミッドウェー | 25—30N<br>176—166W | 22 | | | 2 | 15 | 12 | 3 | 3 | 20 | 21 | 5 | | | 1 | 1 | 83 | 115 |
| | | | | | | | 2.4 | 18.1 | 14.5 | 3.6 | 3.6 | 24.1 | 25.3 | 6.0 | | | 1.2 | 1.2 | 100 | |
| | 3 | ハワイ南西<br>(5°N以北) | 11—12N<br>180—172W | 62 | | | | | | 2 | 19 | 76 | 31 | 11 | 2 | | | 1 | 142 | 1243 |
| | | | | | | | | | | 1.4 | 13.4 | 53.5 | 21.8 | 7.7 | 1.4 | | | 0.7 | 100 | |
| | 1 | タヒチ | 18—22S<br>149—142W | 20 | | | | | | 1 | 26 | 15 | 16 | 9 | 11 | 5 | | | 83 | 225 |
| | | | | | | | | | | 1.2 | 31.3 | 18.1 | 19.3 | 10.8 | 13.3 | 6.0 | | | 100 | |
| は | 1 | 35—40N<br>150E—180 | 36—38N<br>169—173E | 16 | | | | | | | | | 5 | 1 | 3 | 2 | | | 11 | 11 |
| | | | | | | | | | | | | | 45.5 | 9.1 | 27.3 | 18.2 | | | 100 | |
| | 9 | 30—35N<br>150E—180 | 32—36N<br>149—179E | 126 | | | 3 | 2 | | | 2 | 1 | 16 | 28 | 28 | 17 | 2 | | 99 | 90 |
| | | | | | | | 3.0 | 2.0 | | | 2.0 | 1.0 | 16.3 | 28.3 | 28.3 | 17.2 | 2.0 | | 100 | |
| | 2 | 東北 | 35—38N<br>143—145E | 16 | | | | 2 | | | | 2 | 1 | | | 1 | | | 6 | 7 |
| | | | | | | | | 33.3 | | | | 33.3 | 16.7 | | | 16.7 | | | 100 | |
| | 3 | 伊豆東方 | 33—35N<br>145—149E | 17 | | | | | | | 1 | 2 | 5 | 3 | 2 | 1 | | | 14 | 11 |
| | | | | | | | | | | | 7.1 | 14.3 | 35.7 | 21.4 | 14.3 | 7.1 | | | 100 | |
| | 2 | 南海 | 29—31N<br>134—137E | 32 | | | | 2 | | | | | 2 | 2 | 2 | | | | 8 | 10 |
| | | | | | | | | 2.5 | | | | | 2.5 | 2.5 | 2.5 | | | | 100 | |
| | 2 | 西部太平洋<br>170°E以西 | 28—31N<br>141—146E | 23 | | | 1 | 3 | | | | 4 | 3 | 1 | | | 1 | | 13 | 13 |
| | | | | | | | 7.7 | 23.1 | | | | 30.8 | 23.1 | 7.7 | | | 7.7 | | 100 | |
| | 1 | 南洋北部<br>(170°E以東) | 11—12N<br>175—177E | 19 | | | | | | | 11 | 77 | 43 | 7 | 3 | | | | 141 | 490 |
| | | | | | | | | | | | 7.8 | 54.6 | 30.5 | 5.0 | 2.1 | | | | 100 | |
| | 1 | 南洋南部<br>(170°E以東) | 7—8N<br>178—179E | 10 | | | | | | 2 | 27 | 79 | 45 | 9 | | | | 1 | 163 | 464 |
| | | | | | | | | | | 1.2 | 16.6 | 48.5 | 27.6 | 5.5 | | | | 0.6 | 100 | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 19 | 南洋南部(170°E以西) | 0— 9N 140—149E | 304 | | | | 8 | 37 | 50 | 421 | 1307 | 1091 | 175 | 32 | 9 | 3 | 3 | 3136 | 12786 |
| | | | | | | | | 0.3 | 1.2 | 1.6 | 13.4 | 41.7 | 34.8 | 5.6 | 1.0 | 0.3 | 0.1 | 0.1 | 100 | |
| だ | 2 | ソロモン | 2— 14S 146—162E | 28 | | | | | | 1 | 8 | 17 | 41 | 22 | 36 | 8 | 1 | | 134 | 1108 |
| | | | | | | | | | | 0.7 | 6.0 | 12.7 | 30.6 | 16.4 | 26.9 | 6.0 | 0.7 | | 100 | |
| | 8 | ニューカレドニア | 15— 25S 153—171E | 166 | | | | | 1 | 5 | 83 | 244 | 420 | 365 | 419 | 88 | 8 | 1 | 1634 | 5950 |
| | | | | | | | | | 0.1 | 0.3 | 5.1 | 14.9 | 25.7 | 22.3 | 25.6 | 5.4 | 0.5 | 0.1 | 100 | |
| | 1 | 小スンダチモール | 13— 15S 114—121E | 21 | | | | | | | 3 | 9 | 10 | 8 | 9 | 2 | | | 41 | 214 |
| | | | | | | | | | | | 7.3 | 22.0 | 24.4 | 19.5 | 22.0 | 4.9 | | | 100 | |
| | 5 | 濠洲西方 | 10— 24S 91—114E | 86 | | | | | | 1 | 6 | 15 | 66 | 73 | 241 | 76 | 11 | 1 | 490 | 2395 |
| | | | | | | | | | | 0.2 | 1.2 | 3.1 | 13.5 | 14.9 | 49.2 | 15.5 | 2.2 | 0.2 | 100 | |
| | 3 | 西部印度洋 | 17— 22S 51— 65E | 87 | | | | | | | 3 | 44 | 104 | 35 | 97 | 78 | 6 | | 367 | 2039 |
| | | | | | | | | | | | 0.8 | 12.0 | 28.3 | 9.5 | 26.4 | 21.3 | 1.6 | | 100 | |

| 魚種 | 測定船数 | 漁場 | 操業位置 | 操業回数 | 60 cm 以下 | 61—70 | 71—80 | 81—90 | 91—100 | 101—110 | 111—120 | 121—130 | 131—140 | 141—150 | 151—160 | 161—170 | 171—180 | 181 cm 以上 | 計 | 漁獲尾数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| め | 1 | イースター | 10— 13S 111—109W | 26 | | | | | | | 6 | 2 | 13 | 20 | 72 | 49 | 38 | 23 | 223 | 2072 |
| | | | | | | | | | | | 2.7 | 0.9 | 5.8 | 9.0 | 32.3 | 22.0 | 17.0 | 10.3 | 100 | |
| | 3 | 0— 15S 140—120W | 5— 16S 141—119W | 91 | | | | 1 | 11 | 20 | 22 | 31 | 48 | 61 | 103 | 55 | 63 | 50 | 465 | 3124 |
| | | | | | | | | 0.2 | 2.4 | 4.3 | 4.7 | 6.7 | 10.3 | 13.1 | 22.2 | 11.8 | 13.5 | 10.8 | 100 | |
| | 2 | アルキペラゴ | 18— 21S 140—134W | 36 | | | | | | | 2 | 6 | 19 | 10 | 16 | 2 | 2 | | 57 | 243 |
| | | | | | | | | | | | 3.5 | 10.5 | 33.3 | 17.5 | 28.1 | 3.5 | 3.5 | | 100 | |
| | 1 | 30— 40N 180—140W | 29— 31N 172—168W | 11 | | | 1 | | 62 | 15 | 9 | 10 | 9 | 30 | 20 | 6 | 3 | 4 | 169 | 736 |
| | | | | | | | 0.6 | | 36.7 | 8.9 | 5.3 | 5.9 | 5.3 | 17.8 | 11.8 | 3.6 | 1.8 | 2.4 | 100 | |
| | 2 | ミッドウエー | 25— 30N 176—167W | 25 | | 2 | 3 | 22 | 22 | 12 | 18 | 9 | 12 | 34 | 22 | 4 | | | 160 | 844 |
| | | | | | | 1.3 | 1.9 | 13.8 | 13.8 | 7.5 | 11.3 | 5.6 | 7.5 | 21.3 | 13.8 | 2.5 | | | 100 | |
| | 3 | ハワイ南西(5°N以北) | 11— 12N 180—172W | 62 | | | | | 42 | 65 | 66 | 78 | 65 | 43 | 58 | 9 | 6 | 1 | 433 | 2937 |
| | | | | | | | | | 9.7 | 15.0 | 15.2 | 18.0 | 15.0 | 9.9 | 13.4 | 2.1 | 1.4 | 0.2 | 100 | |
| | 1 | タヒチ | 18— 22S 149—142W | 20 | | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 5 | 1 | 5 | 2 | 2 | 30 | 36 |
| | | | | | | | | | 3.3 | 6.7 | 10.0 | 13.3 | 16.7 | 16.7 | 3.3 | 16.7 | 6.7 | 6.7 | 100 | |
| | 1 | 35— 40N 150E—180 | 36— 38N 169—173E | 16 | | | | | 40 | 18 | 23 | 2 | 17 | 21 | 6 | 3 | 1 | | 131 | 271 |
| | | | | | | | | | 30.5 | 13.7 | 17.6 | 1.5 | 13.0 | 16.0 | 4.6 | 2.3 | 0.3 | | 100 | |
| | 7 | 30— 35N 150E—180 | 30— 35N 149—179E | 106 | | 3 | 9 | 72 | 140 | 60 | 142 | 33 | 97 | 101 | 27 | 16 | 14 | 8 | 722 | 1080 |
| | | | | | | 0.4 | 1.2 | 10.0 | 19.4 | 8.3 | 19.5 | 4.6 | 13.4 | 14.0 | 3.7 | 2.2 | 1.9 | 1.1 | 100 | |
| ば | 2 | 東北 | 35— 38N 143—145E | 17 | | | | | 5 | 5 | 29 | 17 | 26 | 30 | 12 | 2 | 1 | | 127 | 104 |
| | | | | | | | | | 3.9 | 3.9 | 22.8 | 13.4 | 20.5 | 23.6 | 9.4 | 1.6 | 0.8 | | 100 | |

| 魚種 | 測定船数 | 漁場 | 操業位置 | 操業回数 | 40 cm 以下 | 41—50 | 51—60 | 61—70 | 71—80 | 81—90 | 91—100 | 101—110 | 111—120 | 121—130 | 131—140 | 141—150 | 151—160 | 161 cm 以上 | 計 | 漁獲尾数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ち | 2 | 伊豆東方 | 32—34N<br>142—149E | 18 | | | | 4<br>3.2 | 17<br>13.4 | 4<br>3.2 | 22<br>17.3 | 15<br>11.8 | 13<br>10.2 | 25<br>19.7 | 19<br>15.0 | 6<br>4.7 | 2<br>1.6 | | 127<br>100 | 94 |
| | 2 | 南海 | 29—31N<br>134—137E | 32 | | | 3<br>2.3 | 29<br>22.3 | 34<br>26.2 | 31<br>23.8 | 10<br>7.7 | 4<br>3.1 | 12<br>9.2 | 3<br>2.3 | 2<br>1.5 | 2<br>1.5 | | | 130<br>100 | 169 |
| | 2 | 西部太平洋<br>(170°E以西) | 28—31N<br>141—146E | 23 | | | | | 5<br>11.9 | 5<br>11.9 | 4<br>9.5 | 10<br>23.8 | 5<br>11.9 | 3<br>7.1 | 3<br>7.1 | 2<br>4.8 | 1<br>2.4 | 4<br>9.5 | 42<br>100 | 46 |
| | 2 | 南洋北部<br>(170°E以東) | 10—12N<br>175—179E | 30 | | | | | 17<br>4.5 | 57<br>14.9 | 63<br>16.5 | 78<br>20.4 | 80<br>20.9 | 38<br>9.9 | 38<br>9.9 | 8<br>2.1 | 3<br>0.8 | | 382<br>100 | 1048 |
| | 1 | 南洋北部<br>(170°E以西) | 10—11N<br>158—159E | 2 | | | | | 3<br>6.4 | 3<br>6.4 | 3<br>6.4 | 10<br>21.3 | 15<br>31.9 | 11<br>23.4 | 1<br>2.1 | 1<br>2.1 | | | 47<br>100 | 87 |
| | 19 | 南洋南部<br>(170°E以西) | 0—10N<br>133—168E | 313 | | 1<br>0.0 | 3<br>0.1 | 95<br>3.9 | 222<br>9.0 | 241<br>9.8 | 415<br>16.8 | 476<br>19.3 | 646<br>26.2 | 261<br>10.6 | 81<br>3.3 | 14<br>0.6 | 4<br>0.2 | 5<br>0·2 | 2464<br>100 | 6910 |
| | 1 | ソロモン | 2—14S<br>161—162E | 9 | | | | | 1<br>2.5 | | | | | 2<br>5.0 | | 1<br>2.5 | | | 4<br>100 | 36 |
| | 4 | ニュー<br>カレドニア | 17—24S<br>153—157E | 82 | | | | | 7<br>9.5 | 14<br>18.9 | 9<br>12.2 | 8<br>10.8 | 10<br>13.5 | 9<br>12.2 | 14<br>18.9 | 3<br>4.1 | | | 74<br>100 | 145 |
| | 1 | バンダ<br>フロレス | 4—6S<br>127—132E | 9 | | | | | 5<br>6.8 | 5<br>6.8 | 19<br>25.8 | 9<br>12.6 | 15<br>20.3 | 17<br>23.0 | 4<br>5.4 | | | | 74<br>100 | 68 |
| | 1 | 小スンダ<br>チモール | 13—15S<br>114—121E | 21 | | | | | 10<br>21.7 | 11<br>23.9 | 8<br>17.4 | 7<br>15.2 | 9<br>19.6 | 1<br>2.2 | | | | | 46<br>100 | 60 |
| | 4 | 濠洲西方 | 10—24S<br>95—114E | 77 | | | | | 10<br>6.0 | 22<br>13.1 | 17<br>10.1 | 31<br>18.5 | 47<br>28.0 | 29<br>17.3 | 8<br>4.8 | 4<br>2.4 | | | 168<br>100 | 558 |
| | 3 | 西部印度洋 | 17—22S<br>51—65E | 87 | | | | | 2<br>2.0 | 4<br>3.9 | 13<br>12.7 | 11<br>10.4 | 30<br>29.4 | 25<br>24.5 | 12<br>11.8 | 3<br>2.9 | 2<br>0.2 | | 102<br>100 | 176 |
| びん | 1 | 30—40N<br>180—140W | 29—31N<br>172—168W | 11 | | | | | | 10<br>11.0 | 22<br>24.2 | 58<br>63.7 | 1<br>1.1 | | | | | | 91<br>100 | 209 |
| | 2 | ミッドウェー | 26—29N<br>178—171W | 20 | | | | | | | 19<br>14.1 | 108<br>80.0 | 8<br>5.9 | | | | | | 135<br>100 | 223 |
| | 1 | 35—40N<br>150E—180 | 36—38N<br>169—173E | 16 | | | | 13<br>9.7 | 11<br>8.2 | 43<br>32.1 | 34<br>25.4 | 17<br>12.7 | 16<br>11.9 | | | | | | 134<br>100 | 627 |
| | 5 | 30—35N<br>150E—180 | 32—35N<br>149—177E | 64 | | | | 1<br>0.6 | 1<br>0.6 | 64<br>40.5 | 74<br>46.8 | 11<br>7.0 | 7<br>4.4 | | | | | | 158<br>100 | 2694 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| なが | 2 | 東北 | 35—38N<br>143—145E | 17 | | | | 43<br>19.4 | 164<br>73.9 | 15<br>6.8 | | | | | | | | | 222<br>100 | 222 |
| | 1 | 伊豆東方 | 32—34N<br>142—149E | 11 | | | | | 2<br>3.1 | 42<br>65.6 | 19<br>29.7 | 1<br>1.6 | | | | | | | 64<br>100 | 59 |
| | 2 | 南海 | 29—31N<br>134—137E | 32 | | | | | | | 32<br>45.1 | 38<br>53.5 | 1<br>1.4 | | | | | | 71<br>100 | 328 |
| | 2 | 西部太平洋<br>(170°E以西) | 28—31N<br>141—146E | 23 | | | | | | 4<br>2.6 | 82<br>53.9 | 63<br>41.4 | 3<br>2.0 | | | | | | 152<br>100 | 947 |

| 魚種 | 測定船数 | 漁場 | 操業位置 | 操業回数 | 80 cm以下 | 81—90 | 91—100 | 101—110 | 111—120 | 121—130 | 131—140 | 141—150 | 151—160 | 161—170 | 171—180 | 181—190 | 191—200 | 201 cm以上 | 計 | 漁獲尾数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| いんどまぐろ | 2 | 小スンダチモール | 13—15S<br>114—121E | 33 | | | | | | | 7<br>2.4 | 93<br>31.3 | 136<br>45.8 | 55<br>18.5 | 5<br>1.7 | 1<br>0.3 | | | 297<br>100 | 1389 |
| | 1 | ジヤワ沿海 | 10—12S<br>106—113E | 12 | | | | | | | 1<br>10.0 | 2<br>20.0 | 4<br>40.0 | 2<br>20.0 | 1<br>10.0 | | | | 10<br>100 | 16 |
| | 2 | 濠洲西方 | 10—23S<br>91—102E | 39 | | | | | | 2<br>1.5 | 8<br>6.0 | 42<br>31.6 | 47<br>35.3 | 28<br>21.1 | 6<br>45.0 | | | | 133<br>100 | 720 |

| 魚種 | 測定船数 | 漁場 | 操業位置 | 操業回数 | 130 cm以下 | 131—140 | 141—150 | 151—160 | 161—170 | 171—180 | 181—190 | 191—200 | 201—210 | 211—220 | 221—230 | 231—240 | 241—250 | 251 cm以上 | 計 | 漁獲尾数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| くろ | 1 | イースター | 10—13S<br>111—109W | 26 | | | | | 6<br>15.0 | 3<br>7.5 | 8<br>20.0 | 4<br>10.0 | 6<br>15.0 | 2<br>5.0 | 4<br>10.0 | 3<br>7.5 | 1<br>2.5 | 3<br>7.5 | 4[illegible]<br>100 | 137 |
| | 2 | 0—15S<br>140—120W | 5—10S<br>132—119W | 67 | | | | 4<br>5.4 | 12<br>16.2 | 8<br>10.8 | 10<br>13.5 | 18<br>24.3 | 6<br>8.1 | 4<br>5.4 | 3<br>4.1 | 7<br>9.5 | 1<br>1.2 | 1<br>1.2 | 74<br>100 | 428 |
| | 2 | アルキペラゴ | 18—21S<br>140—134W | 36 | | 1<br>0.5 | | 1<br>0.5 | 28<br>13.8 | 49<br>24.1 | 66<br>33.5 | 31<br>15.3 | 7<br>3.4 | 2<br>1.0 | 5<br>2.5 | 6<br>3.0 | 2<br>1.0 | 5<br>2.5 | 203<br>100 | 873 |
| | 3 | ハワイ南西<br>(5°N以北) | 11—12N<br>180—172W | 62 | | 1<br>7.1 | 3<br>21.4 | 1<br>7.1 | 3<br>21.4 | 2<br>14.3 | 1<br>7.1 | | | 1<br>7.1 | | 1<br>7.1 | | 1<br>7.1 | 14<br>100 | 89 |
| | 1 | タヒチ | 18—22S<br>149—142W | 20 | 1<br>2.2 | 2<br>4.3 | 3<br>6.5 | 1<br>2.2 | 8<br>17.4 | 16<br>34.8 | 7<br>15.2 | 1<br>2.2 | 1<br>2.2 | 2<br>4.3 | 1<br>2.2 | 1<br>2.2 | 1<br>2.2 | 1<br>2.2 | 46<br>100 | 364 |
| | 7 | 30—35N<br>150E—180 | 30—36N<br>149—179E | 98 | | | | | | | 1<br>6.7 | 1<br>6.7 | 5<br>33.3 | 4<br>26.7 | 1<br>6.7 | 1<br>6.7 | | 2<br>13.3 | 15<br>100 | 15 |
| | 1 | 伊豆東方 | 32—34N<br>142—149E | 11 | | | | | | | | | 1<br>50.0 | 1<br>50.0 | | | | | 2<br>100 | 5 |
| | 2 | 西部太平洋<br>(170°E以西) | 28—31N<br>141—146E | 23 | | | | | 1<br>14.3 | | 1<br>14.3 | | 1<br>14.3 | 3<br>42.9 | | 1<br>14.3 | | | 7<br>100 | 7 |

| 魚種 | 測定船数 | 漁場 | 操業位置 | 操業回数 | 130 cm 以下 | 131—140 | 141—150 | 151—160 | 161—170 | 171—180 | 181—190 | 191—200 | 201—210 | 211—220 | 221—230 | 231—240 | 241—250 | 251 cm 以上 | 計 | 漁獲尾数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2 | 南洋北部<br>(170°E以東) | 10—12N<br>175—179E | 30 | 4<br>9.3 | 8<br>18.6 | 6<br>14.0 | 8<br>18.6 | 9<br>20.9 | | 1<br>2.3 | 1<br>2.3 | | | 3<br>7.0 | 2<br>4.7 | 1<br>2.3 | | 43<br>100 | 131 |
| か | 17 | 南洋南部<br>(170°E以西) | 0—10N<br>133—168E | 293 | 18<br>3.0 | 145<br>24.0 | 179<br>29.6 | 119<br>19.7 | 57<br>9.4 | 23<br>3.8 | 10<br>1.7 | 12<br>2.0 | 19<br>3.1 | 6<br>1.0 | 6<br>1.0 | 5<br>0.8 | 4<br>0.7 | 2<br>0.3 | 605<br>100 | 1226 |
| | 2 | ソロモン | 2—14S<br>146—162E | 28 | | 7<br>21.2 | 6<br>18.2 | 2<br>6.1 | 4<br>12.1 | 2<br>6.1 | 3<br>9.1 | | 3<br>9.1 | 3<br>9.1 | 1<br>3.0 | | 2<br>6.1 | | 33<br>100 | 224 |
| | 6 | ニューカレドニア | 15—25S<br>153—171E | 135 | 2<br>0.9 | 18<br>7.7 | 32<br>13.6 | 27<br>11.5 | 46<br>19.6 | 19<br>8.1 | 9<br>3.8 | 15<br>6.4 | 18<br>7.7 | 19<br>8.1 | 14<br>6.0 | 6<br>2.6 | 4<br>1.7 | 6<br>2.6 | 235<br>100 | 330 |
| | 2 | 小スンダチモール | 13—15S<br>114—121E | 33 | | | | 3<br>9.4 | 8<br>25.0 | 7<br>21.9 | 5<br>15.6 | 2<br>6.3 | 1<br>3.1 | 3<br>9.4 | 3<br>9.4 | | | | 32<br>100 | 73 |
| わ | 1 | ジャワ沿海 | 10—12S<br>106—113E | 12 | | | 2<br>7.4 | 5<br>18.5 | 10<br>37.0 | 6<br>22.2 | 2<br>7.4 | 1<br>3.7 | 1<br>3.7 | | | | | | 27<br>100 | 62 |
| | 3 | 濠洲西方 | 10—23S<br>91—115E | 48 | | | 1<br>1.3 | 4<br>5.1 | 19<br>24.4 | 16<br>20.5 | 7<br>9.0 | 5<br>6.4 | 2<br>2.6 | 6<br>7.7 | 5<br>6.4 | 7<br>9.0 | 4<br>5.1 | 2<br>2.6 | 78<br>100 | 139 |
| | 3 | 西部印度洋 | 17—22S<br>51—65E | 87 | | 1<br>0.4 | | 5<br>2.1 | 43<br>17.9 | 61<br>25.4 | 58<br>24.2 | 23<br>9.4 | 13<br>5.4 | 2<br>0.8 | 8<br>3.3 | 10<br>4.2 | 8<br>3.3 | 8<br>3.3 | 240<br>100 | 952 |
| | 1 | イースター | 10—13S<br>111—109W | 26 | | | | | 1<br>9.1 | 2<br>18.2 | 2<br>18.2 | 1<br>9.1 | 1<br>9.1 | | 1<br>9.1 | 1<br>9.1 | 1<br>9.1 | 1<br>9.1 | 11<br>100 | 15 |
| | 4 | 0—15S<br>140—120W | 5—16S<br>141—119W | 108 | | 1<br>2.7 | | 2<br>5.4 | 1<br>2.7 | 1<br>2.7 | 7<br>18.9 | 4<br>10.8 | 1<br>2.7 | 1<br>2.7 | 7<br>18.9 | 3<br>8.1 | 4<br>10.8 | 5<br>13.5 | 37<br>100 | 49 |
| し | 2 | アルキペラゴ | 18—21S<br>140—134W | 36 | | | | | | 1<br>16.7 | | 1<br>16.7 | | 1<br>16.7 | | 1<br>16.7 | | 2<br>33.3 | 6<br>100 | 10 |
| | 1 | ハワイ南西<br>(5°N 以北) | 11—12N<br>180—172W | 26 | | | | | | 1<br>100.0 | | | | | | | | | 1<br>100 | 1 |
| | 1 | 南海 | 30—31N<br>134—137E | 18 | | | | | | 1<br>50.0 | 1<br>50.0 | | | | | | | | 2<br>100 | 2 |
| | 1 | 南洋南部<br>(170°E以東) | 8—9N<br>176—177E | 5 | | | | | | | | | | 1<br>50.0 | | | | 1<br>50.0 | 2<br>100 | 2 |
| ろ | 8 | 南洋南部<br>(170°E以西) | 0—10N<br>133—161E | 143 | | | | 3<br>12.0 | 7<br>28.0 | 4<br>16.0 | 4<br>16.0 | 2<br>8.0 | 2<br>8.0 | 1<br>4.0 | 1<br>4.0 | 1<br>4.0 | | | 25<br>100 | 26 |
| | 1 | ソロモン | 2—14S<br>161—162E | 9 | | | 1<br>7.7 | 2<br>15.4 | 2<br>15.4 | 1<br>7.7 | 2<br>15.4 | | 1<br>7.7 | 1<br>7.7 | 1<br>7.7 | | 1<br>7.7 | 1<br>7.7 | 13<br>100 | 5 |

| 魚種 | 測定船数 | 漁場 | 操業位置 | 操業回数 | 100 cm 以下 | 101—110 | 111—120 | 121—130 | 131—140 | 141—150 | 151—160 | 161—170 | 171—180 | 181—190 | 191—200 | 201—210 | 211—220 | 221 cm 以上 | 計 | 漁獲尾数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| か | 5 | ニューカレドニア | 15—24S | 105 | | 3 | 1 | 15 | 9 | 12 | 22 | 18 | 7 | 7 | 3 | 3 | 1 | 30 | 131 | 125 |
| | | | 153—171E | | | 2.3 | 0.8 | 11.5 | 6.9 | 9.2 | 16.8 | 13.7 | 5.3 | 5.3 | 2.3 | 2.3 | 0.8 | 22.9 | 100 | |
| | 1 | バンダ フロレス | 4—6S | 9 | | 7 | 11 | 8 | 4 | 6 | 1 | 3 | 4 | | | 2 | | 1 | 47 | 21 |
| | | | 127—132E | | | 14.9 | 23.4 | 16.0 | 8.5 | 12.8 | 2.1 | 6.4 | 8.5 | | | 4.3 | | 2.1 | 100 | |
| | 1 | 小スンダ チモール | 13—15S | 21 | | | 4 | 2 | 1 | | 2 | 1 | 5 | 3 | 1 | | | 1 | 20 | 75 |
| | | | 114—121E | | | | 20.0 | 10.0 | 5.0 | | 10.0 | 5.0 | 25.0 | 15.0 | 5.0 | | | 5.0 | 100 | |
| わ | 1 | ジャワ沿海 | 10—12S | 12 | | 1 | 2 | 3 | 1 | | 2 | | | 1 | 2 | 1 | | | 13 | 38 |
| | | | 106—113E | | | 7.7 | 15.4 | 23.1 | 7.7 | | 15.4 | | | 7.7 | 15.4 | 7.7 | | | 100 | |
| | 4 | 濠洲西方 | 10—23S | 62 | | 6 | 11 | 14 | 6 | 9 | 10 | 19 | 15 | 15 | 14 | 11 | 9 | 4 | 143 | 217 |
| | | | 91—114E | | | 4.2 | 7.7 | 9.8 | 4.2 | 6.3 | 7.0 | 13.3 | 10.5 | 10.5 | 9.8 | 7.7 | 6.3 | 2.8 | 100 | |
| | 3 | 西部印度洋 | 17—22S | 87 | | 1 | 2 | 1 | 3 | 5 | 7 | 9 | 12 | 1 | 5 | 5 | 1 | 1 | 53 | 89 |
| | | | 51—65E | | | 1.9 | 3.8 | 1.9 | 5.7 | 9.4 | 13.2 | 17.0 | 22.6 | 1.9 | 9 4 | 9.4 | 1.9 | 1.9 | 100 | |
| ま | 1 | イースター | 10—13S | 26 | | | | 1 | 1 | 9 | 13 | 11 | 5 | 2 | 3 | | | | 45 | 49 |
| | | | 111—109E | | | | | 2.2 | 2.2 | 20.0 | 28.9 | 24.4 | 11.1 | 4.4 | 6.7 | | | | 100 | |
| | 3 | 0—15S | 5—16S | 91 | | 4 | 8 | 8 | 7 | 21 | 20 | 7 | 7 | 5 | 3 | 1 | | | 91 | 100 |
| | | 140—120W | 141—119W | | | 4.4 | 8.8 | 8.8 | 7.7 | 23.1 | 22.1 | 7.7 | 7.7 | 5.5 | 3.3 | 1.1 | | | 100 | |
| | 1 | アルキペラゴ | 20—21S | 23 | | | 1 | | | 5 | 10 | 3 | 3 | | | | | | 22 | 49 |
| | | | 140—1[illegible]4W | | | | 4.5 | | | 22.7 | 45.5 | 13.6 | 13.6 | | | | | | 100 | |
| | 4 | ハワイ南西 | 7—12N | 68 | | | 11 | 18 | 6 | 3 | | | 1 | | | | | | 39 | 121 |
| | | (5°N以北) | 180—168W | | | | 28.2 | 46.2 | 12.8 | 7.7 | | | 2.6 | | | | | | 100 | |
| | 1 | タヒチ | 18—22S | 20 | | | | 1 | | 1 | 3 | | 1 | | | | | | 6 | 41 |
| | | | 149—142W | | | | | 16.7 | | 16.7 | 50.0 | | 16.7 | | | | | | 100 | |
| | 9 | 30—35N | 30—36N | 135 | | | 7 | 46 | 92 | 55 | 17 | 7 | 1 | 2 | | | | | 227 | 222 |
| | | 150—180E | 149—179E | | | | 3.1 | 20.3 | 40.5 | 40.5 | 7.5 | 3.1 | 0.4 | 0.9 | | | | | 100 | |
| | 3 | 伊豆東方 | 32—34N | 24 | | | 5 | 18 | 58 | 8 | 2 | | | | | | | | 91 | 63 |
| | | | 142—149E | | | | 5.5 | 19.8 | 63.7 | 8.8 | 2.2 | | | | | | | | 100 | |
| | 2 | 南海 | 29—31N | 32 | | 1 | 1 | 7 | 2 | 1 | | | | | | | | | 12 | 12 |
| | | | 134—137E | | | 8 3 | 8.3 | 58.3 | 16.7 | 8.3 | | | | | | | | | 100 | |
| か | 2 | 西部太平洋 | 28—31N | 23 | 1 | 1 | 8 | 16 | 20 | | | | | | | | | | 46 | 47 |
| | | (170°E以西) | 141—146E | | 2.2 | 2.2 | 17.4 | 34.8 | 43.5 | | | | | | | | | | 100 | |
| | 2 | 南洋北部 | 10—12N | 30 | | 1 | 12 | 7 | 9 | | 1 | | | | | | | | 30 | 43 |
| | | (170°E以東) | 175—179E | | | 3.3 | 40.0 | 23.3 | 30.0 | | 3.3 | | | | | | | | 100 | |

| 魚種 | 測定船数 | 漁場 | 操業位置 | 操業回数 | 80 cm以下 | 81—90 | 91—100 | 101—110 | 111—120 | 121—130 | 131—140 | 141—150 | 151—160 | 161—170 | 171—180 | 181—190 | 191—200 | 201 cm以上 | 計 | 漁獲尾数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| じ | 1 | 南洋北部 (170°E以西) | 10—11N<br>156—158E | 7 | | 1<br>5.0 | 5<br>25.0 | 7<br>35.0 | 4<br>20.0 | 1<br>5.0 | 1<br>5.0 | 1<br>5.0 | | | | | | | 20<br>100 | 12 |
| | 12 | 南洋南部 (170°E以西) | 0—10N<br>140—165E | 185 | | 1<br>1.7 | 17<br>28.3 | 14<br>23.3 | 11<br>18.3 | 11<br>18.3 | 6<br>10.0 | | | | | | | | 60<br>100 | 59 |
| | 9 | ニューカレドニヤ | 15—25S<br>153—171E | 182 | | | 1<br>0.2 | 10<br>1.6 | 6<br>1.0 | 34<br>5.6 | 113<br>18.5 | 254<br>41.5 | 144<br>23.5 | 42<br>6.9 | 8<br>1.3 | | | | 612<br>100 | 2011 |
| | 1 | 小スンダ チモール | 13—15S<br>114—121E | 21 | | | 7<br>46.7 | 2<br>13.3 | 5<br>33.3 | 1<br>6.7 | | | | | | | | | 15<br>100 | 18 |
| き | 1 | ジャワ沿海 | 10—12S<br>106—113E | 12 | | | | 1<br>16.7 | 1<br>16.7 | 4<br>66.7 | | | | | | | | | 6<br>100 | 24 |
| | 3 | 濠洲西方 | 10—23S<br>91—114E | 53 | | | 8<br>8.1 | 12<br>12.1 | 43<br>43.4 | 24<br>24.2 | 10<br>10.0 | 2<br>2.0 | | | | | | | 99<br>100 | 283 |
| | 2 | 西部印度洋 | 17—22S<br>51—63E | 55 | | | 4<br>20.0 | | 6<br>30.0 | 7<br>3.5 | 3<br>15.0 | | | | | | | | 20<br>100 | 25 |
| | 1 | イースター | 10—13S<br>111—109W | 26 | | | | | | | 1<br>2.9 | | 1<br>2.9 | | 2<br>5.9 | 4<br>11.8 | 4<br>11.8 | 22<br>64.7 | 34<br>100 | 41 |
| | 2 | 0—15S<br>140—120W | 5—16S<br>141—119W | 67 | | | | | | 1<br>6.7 | 1<br>6.7 | 1<br>6.7 | 1<br>6.7 | 2<br>13.3 | 1<br>6.7 | 3<br>20.0 | 2<br>13.3 | 3<br>20.0 | 15<br>100 | 44 |
| め | 1 | アルキペラゴ | 20—21S<br>141—134W | 23 | | | | | | | 2<br>66.7 | 1<br>33.3 | | | | | | | 3<br>100 | 7 |
| | 1 | ハワイ南西 (5°N以北) | 11—12N<br>180—175W | 19 | | | | | | | | | | | | | | 1<br>100 | 1<br>100 | 1 |
| | 1 | 35—40N<br>150E—180 | 36—38N<br>169—173E | 16 | 2<br>1.8 | 1<br>0.9 | 5<br>4.4 | 9<br>8.0 | 9<br>8.0 | 12<br>10.6 | 9<br>8.0 | 1<br>0.9 | 3<br>2.7 | 3<br>2.7 | 9<br>8.0 | 19<br>16.8 | 13<br>11.5 | 18<br>15.9 | 113<br>100 | 216 |
| か | 8 | 30—35N<br>150E—180 | 30—35N<br>149—179E | 116 | 13<br>3.3 | 4<br>1.0 | 21<br>5.3 | 13<br>3.3 | 24<br>6.1 | 26<br>6.6 | 12<br>3.1 | 17<br>4.3 | 32<br>8.1 | 27<br>6.9 | 56<br>14.2 | 57<br>14.5 | 46<br>11.7 | 45<br>11.5 | 393<br>100 | 620 |
| | 1 | 東北 | 35—38N<br>143—145E | 10 | | 1<br>2.4 | 2<br>4.8 | | | | 3<br>7.1 | 3<br>7.1 | 7<br>16.7 | 2<br>4.8 | 4<br>9.5 | 6<br>14.3 | 7<br>16.7 | 7<br>16.7 | 42<br>100 | 27 |
| | 3 | 伊豆東方 | 32—34N<br>142—149E | 25 | 1<br>0.7 | 2<br>1.3 | 8<br>5.3 | 16<br>10.7 | 14<br>9.3 | 14<br>9.3 | 5<br>3.3 | 2<br>1.3 | 13<br>8.7 | 5<br>3.3 | 10<br>6.7 | 26<br>17.3 | 20<br>13.3 | 14<br>9.3 | 150<br>100 | 85 |
| じ | 2 | 南海 | 29—31N<br>134—137E | 32 | | 1<br>3.4 | 6<br>20.7 | 4<br>13.8 | | 1<br>3.4 | 4<br>13.8 | 5<br>17.2 | 2<br>6.9 | | 3<br>10.3 | 1<br>3.4 | 2<br>6.9 | | 29<br>100 | 33 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 南洋北部<br>(170°E以東) | 11－12N<br>175－177E | 19 | | | | | | | | 1<br>33.3 | | 1<br>33.3 | | 1<br>33.3 | | 3<br>100 | 3 |
| | 10 | 南洋南部<br>(170°E以西) | 0－10N<br>133－165E | 164 | | | | | | | 3<br>17.6 | 1<br>5.9 | 2<br>11.8 | | 2<br>11.8 | 4<br>23.5 | 3<br>17.6 | 2<br>11.8 | 17<br>100 | 17 |
| き | 1 | ソロモン | 2－14S<br>146－154E | 19 | | | | | | 1<br>33.3 | | | | 1<br>33.3 | 1<br>33.3 | | | | 3<br>100 | 4 |
| | 5 | ニューカレドニヤ | 17－25S<br>153－157E | 109 | | | | | 2<br>2.9 | 1<br>1.4 | 8<br>11.4 | 3<br>4.3 | 6<br>8.6 | 3<br>4.3 | 11<br>15.7 | 9<br>12.9 | 12<br>17.1 | 15<br>21.4 | 70<br>100 | 67 |
| | 2 | 小スンダ<br>チモール | 13－15S<br>114－121E | 33 | | | | | 3<br>9.7 | 5<br>16.1 | | 3<br>9.7 | 5<br>16.1 | 2<br>6.5 | 1<br>3.2 | 5<br>16.1 | 1<br>3.2 | 6<br>19.4 | 31<br>100 | 27 |
| | 2 | 濠洲西方 | 19－23S<br>100－115E | 29 | | | | | | | 3<br>16.7 | 1<br>5.6 | 2<br>11.1 | 1<br>5.6 | 3<br>16.7 | 1<br>5.6 | | 7<br>38.9 | 18<br>100 | 13 |

**會員レポート**

会　員　高　橋　　昇　（オ27零平丸船長）—オ15号—

## 昭和34年1, 2月におけるファンニング南側周辺の海況と漁況

### 海　況

6回までは瀬に近かつたため波が深く、水温も海域による差がみられなかつた。潮流は赤道反流なのであまり大きくはないが、海域により多少の遅速があり、水色も青が白みを帯び空の色の様であつた。7回以後は水色も青々とし、潮流もほゞ一定であつた。またなぎも良く、スコールも1日に2,3回で、操業には最適であつた。

### 漁　況

6回までの海域（赤道以北の瀬の近く）のまぐろは、種類も大小もまばらで、散らばつていて群をなさず、移動も小さい様に見受けられた。またさめが非常に多かつた。

7回以後の海域（赤道以南で4日走つて沖へ出す）も魚体が不揃いであつたが、またかつおが多く、所々に大群をみ、多い時には投縄時間に3, 4の群を見た。そのため大部分餌をとられ、かつおも40～50尾も釣つたことがあつた。

全体的にみて漁は非常に少かつたが、それは、同温の水帯が廣く、操業海域をどちらの方向に移しても大差ないので、月夜にさんまが散り散りになるのと同じ理由によるものゝ様に思われた。

### その他

潮目は殆んどなかつた。魚体は産卵後の方が多かつた。長物は小または豆ばかりで、魚体は全般的に小さかつた。

# マグロ漁況概況豫報　（1960年1月）

神奈川県水試漁業指導科

東部太平洋第2漁場（5—20°N, 150°W以東）

キハダは不漁期に当りますが若干漁獲は高くなり1.4屯、メバチは冬季の好漁期に当り3.5屯程度でしよう。

東部太平洋第3漁場（5°N—10°S, 150°W以東）

この漁場は、キハダもメバチも緯度によりかなり異なり、赤道から北緯5°までの水帯がキハダ0.9屯、メバチ3.0屯、赤道から南緯2°までの水帯がキハダ4.0屯、メバチ3.6屯、南緯2°から5°までの水帯がキハダ1.8屯、メバチ4.8屯、南緯5°から7°までの水帯がキハダ1.8屯、メバチ3.6屯、南緯7°から10°までの水帯がキハダ1.8屯、メバチ4.8屯程度になりますが、この分布の境は経度により多少異なり、また絶えず変化しているので、この点の注意が必要でしよう。

東部太平洋第4漁場（10—30°S, 150°W以東）

南緯15°から20°までの水帯ではビンナガ0.6屯程度、南緯14°から29°まで、西経144°から139°までの海域ではクロカワが2.4屯程度漁獲されるでしよう。

中部太平洋第1漁場（20—40°N, 170°E—150°W）

この漁場のビンナガは日本列島沖合漁場の延長漁場で、北西端では0.3屯程度漁獲され、マカジキは好漁期直後で殆んど漁獲がないでしよう。メバチは好漁期に入りますが、今年は不漁年に当り2.0屯程度の漁獲でしよう。

中部太平洋第2漁場（5—20°N, 170°E—150°W）

この漁場のメバチは好漁期に当りますが、年年の漁獲は芳しくなく、東経170°から180°までの海域と西経170°から160°までの海域が1.7屯、180°から西経170°までの海域が2.5屯程度、クロカワは不漁期で0.2屯程度でしよう。

中部太平洋第3漁場（5°N—10°S, 170°E—150°W）

キハダは不漁期に当り全海域0.9屯、クロカワは、北緯5°から南緯5°までの海域が不漁期で0.2屯、南緯5°から10°までの海域が好漁期で1.2屯になるでしよう。

中部太平洋第4漁場（10—30°S, 170°E—150°W）

ビンナガは南緯22°に分布の境がみられ、南緯10°から22°までの水帯は0.5屯、南緯22°から30°までの水帯は0.3屯、クロカワは南緯10°から18°までの水帯が好漁期で0.8屯、マカジキは好漁終期で0.7屯程度の漁獲でしよう。

中部太平洋第5漁場（30—40°S, 170°E—150°W）

この漁場はゴウシユウマグロの漁場で、180°以西が2.7屯、180°以東が3.6屯、ビンナガはこの海域としては好漁期で釣獲率2.0ですが、魚体が著しく小さいので0.3屯程度

の漁獲でしょう。

西部太平洋第１漁場（20—40°N, 170°E—150°W）

小笠原周辺のキハダは不漁期で0.1屯、メバチは伊豆周辺のみ稍高く0.4屯、他海域は不漁期で、北緯30°の南側は0.1屯、北緯30°から35°までの海域は0.2屯程度、ビンナガは北東海域から次第に好漁になり始めましたが昭和35年の冬季は芳しくなく、北緯30°から35°までの海域の東よりが0.6屯、北緯25°から30°までの東よりが0.4屯、北緯25°から35°までの西よりの海域は0.1—0.2屯、伊豆諸島西方海域は殆んど漁獲がないでしょう。なお、メカジキは北緯30°から40°までの東経148°以東の海域が好漁で、北緯35°以北が0.5屯、以南が0.3屯程度になるでしょう。

西部太平洋第２漁場（5—20°N, 120—170°E）

メバチは東方へと移動し、東経160°以西の海域が0.5屯、東経160°から170°にかけての海域が1.2屯、クロカワは不漁期に当り0.2屯程度の漁獲でしよう。

西部太平洋第３漁場（5°N—10°S, 120—170°E）

この漁場のキハダは好漁期に当りますが、魚体が概して小さいので、漁獲は1.0屯程度、但し、東経160°以西の魚体は30kg程度ですが、東経160°から170°までの海域及び南緯５°から10°までの海域では35kg程度ですので、これらの海域では若干上まわるでしよう。クロカワは、北緯５°から南緯５°までの海域が不漁期で0.2屯、南緯5°から10°までの海域は好漁期初期に当るため若干高く、0.3屯程度でしよう。

西部太平洋第４漁場（10—30°S, 140—170°E）

この漁場のキハダは好漁期であり、魚体も40kg近くありますので、漁獲は1.8屯、ビンナガは緯度により異なり、南緯10°から13°までの水帯が0.2屯、南緯13°から20°までの水帯が0.7屯、南緯20°から22°までの水帯が0.5屯、マカジキは好漁期直後で、南緯18°から30°の水帯では0.7屯程度の漁獲でしよう。

南支那海及びバンダ海漁場

南支那海はキハダが不漁期で0.5屯、メバチが好漁期で0.8屯、バンダ海は、キハダ、メバチの両者とも不漁期で、キハダが1.2屯、メバチが0.4屯、シロカワは時々アル•セラム島周辺で漁獲されることがあり、漁獲は1.1屯程度でしよう。

ベンガル灣及びアラビア海漁場（5°N以北）

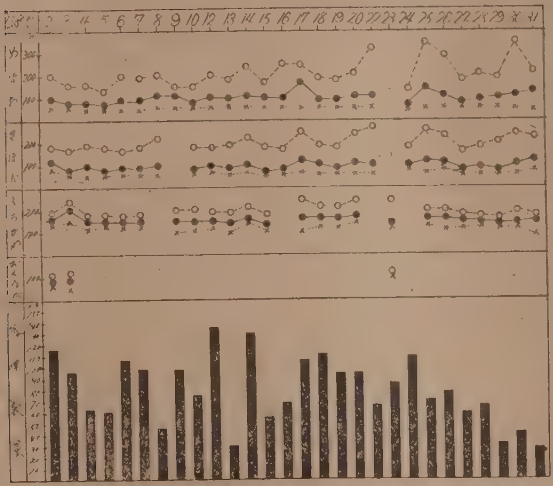
ベンガル灣のキハダは好漁前期ですが、昭和30年以降漁獲が年々落ちていますので高くとも1.5屯程度、メバチは年による変動はみられませんが好漁期初期で0.9屯、マカジキは不漁期で殆んど漁獲がないでしよう。アラビア海のキハダは好漁年に当りますが好漁期前期ですので1.8屯デカン半島西方のクロカワは最盛期で2.4屯程度の漁獲でしよう。

中部印度洋漁場（5°N—10°S, 100°E以西）

キハダは好漁期に当り、東経70°以東の海域が2.7屯、以西の海域が3.4屯、メバチは0.5屯、ビンナガは不漁期で0.2屯程度でしよう。

濠洲西方漁場（100°E以東）

キハダは好漁期に当り、ジヤワ南方南緯10°以北に集中していた漁場は、バンダ海南から濠洲のインスロー沖にまでひろがり、漁獲は、小スンダ・チモール南方の南緯10°以北が1.5屯、ジヤワ南方の南緯10°以北が1.2屯、濠洲北西岸沖合が1.8屯、メバチは赤道以北が好漁期末期で1.2屯、他海域は不漁期で0.6屯、ヒンナガは不漁期に当り南緯18°以南の西側のみで漁獲され0.2屯、インドマグロは一たんひろがつた魚群が再び集中し始め1.1屯、クロカワは0.5屯、シロカワは東よりの海域で0.1屯になるでしよう。



鮪類水揚価格表（三崎）昭和三十四年十月

## 鮪類標識放流について

1959年10月1日から11月30日までの間に放流委託を行つた船名と標識番号は表に示す如くである。

| 船名 | 標識番号 |
|---|---|
| 12 複生丸 | ×0221～223<br>225～230 (9本) |

## まぐろ研究報告の紹介

No. 7

### マグロ青肉に関する研究—III
### 青肉個体の簡易判別法（予報）

平尾秀一・村山繁雄・築瀬正明・木坂健次
山田充阿彌・菊地嶺・田部井菊子・榎本吉宏

（日本水産学会誌 24 (8), 1958）

キハダの腎臓約10gを乳鉢で磨砕し，その1gに水50ccを加え，振りまぜる．この懸濁液の色調は，正常個体に於いては淡い褐色，青肉個体に在っては黒褐色であり，肉色の程度に応じて段階的の変化がみとめられる．従って，この現象は青肉の簡単な判別法として利用できる．（紹介 中込）

### 中部及び西部太平洋のキハダの体長変化

Edwin S. Iverson

(Special Scientific report-Fisheries No. 174
Bureau of Commercial Fisheries)

1．ハワイ周辺のキハダの雄の魚体は雌よりも大きい．雌雄比は約1：0.6で，この比は1年中安定している．

2．ハワイ周辺のキハダの体長組成は，年による差が殆んどみられない．

3．この海域では，小型魚（100—130ポンド）は6．7月に出現し，大型魚（130ポンド以上）は8．9月に出現する．

4．1948年から1953年の間のこの海域のキハダの体長測定結果は，ムーアによって報告された成長率に概して一致したが，彼が述べている様な成長停たい期（6—9月）のみられないことを示している．しかし，各年の後半期に成長がおそくなる様には思われた．

5．赤道付近のキハダの体長組成は，ハワイ周辺の組成と同じである．即ち，雌雄の間に差がみられ，年による差は問題にならない程小さい．

6．赤道付近のキハダの体長組成には，モードの周年変化はみられない．

7．西部赤道周辺，中部赤道周辺，及びハワイ周辺のキハダの体長組成は，モードがすべて同じ位置に出現すること，また，それらのモードの内のあるものが，しばしば，或は一貫して，中部及び西部赤道付近の資料の中から見えなくなることを示している．（ほん訳と紹介 中込）

# かつおまぐろ漁業の現況とその問題点（三）

北洋さけます漁業者による
かつおまぐろ漁業転換問題に関連して

日本鰹鮪漁業協同組合連合会
日本鰹鮪漁業者協会

## 3 経済的諸問題

### (1) 経　営 ——深刻なその様相——

漁船の大型化によって漁場は拡散した．そこで，日本近海，中距離漁場に依存する中型かつおまぐろ漁船の経営内容は好転したか，遺憾乍ら結論は「否」である．中型かつおまぐろ漁船の経営状態はいよいよ深刻を極めその打開は業界の当面する最大の問題となっている．

一口に中型かつおまぐろ漁船というが，大別すると，かつおまぐろ竿釣漁業とまぐろ延繩漁業を兼業するかつおまぐろ兼業船と，まぐろ延繩漁業のみを行うまぐろ延繩専業船とに分類出来る（煩雑をさけて，以下前者をかつおまぐろ竿釣船，後者をまぐろ延繩船と称することにする）．

その構成と経営形態別の内訳は次のとおりである．（昭和32年末におけるかつおまぐろ許可船による，カッコ内は全体に対する百分比）

| | | |
|---|---|---|
| 総数 | 1,243隻（100.0） | 200,228屯（100.0） |
| かつおまぐろ竿釣船 | 532隻（42.8） | 66,974屯（33.4） |
| まぐろ延繩船 | 711隻（57.2） | 133,254屯（66.6） |
| 会社経営 | 303隻（24.4） | 77,061屯（38.5） |
| 組合経営 | 119隻（9.6） | 16,133屯（8.1） |
| 個人経営 | 821隻（66.0） | 107,034屯（53.4） |

これをさらに，200屯未満の中小型船に絞って業種別にみると

| | | |
|---|---|---|
| かつおまぐろ竿釣船（200屯未満） | | |
| 会社経営 | 79隻（15.6） | 10,423屯（17.1） |
| 組合経営 | 42隻（8.3） | 4,851屯（8.0） |
| 個人経営 | 387隻（76.1） | 45,618屯（74.9） |
| まぐろ延繩船（200屯未満） | | |
| 会社経営 | 113隻（21.3） | 12,565屯（23.8） |
| 組合経営 | 58隻（11.0） | 5,443屯（10.3） |
| 個人経営 | 358隻（67.7） | 34,736屯（65.9） |

かつおまぐろ漁船の大半とくに中小型船の大部分は個人経営であり，弱小企業体に属するものである．会社経営として分類されているものも，実態は税務面等への考慮から形式的にそうしたものが大部分であって，これらは個人経営と，その規模において，内容において何ら変るものではないといえる．

これらの漁船はそれぞれ経営上深刻な問題をかかえている．

かつおまぐろ竿釣船問題

これに属する漁船は春から夏にかけてかつお群を追って日本列島にそった海面を北上する．漁法は竿釣である．しかし，かつお漁だけでは経営は成り立たない．かつおのみによる収益では採算点を下廻り，しかも，その収入ラインは略々固定化している．この竿釣船が採算を維持し得るかどうかは，かかって，毎年5，6月を中心に日本近海に近づき，その漁獲の殆んどすべてが輸出されるびんながまぐろの竿釣漁の成果如何にある．以下順を追って問題点を検討してみよう．

◉停滞するかつお漁業　かつおの漁獲量はここ数年間９万トン前後（約2千4百万貫）で固定している．漁獲量と併行して魚価も殆んど動かない．キロ当りの魚価は，29年79円（296円/貫），30年61円（227円/貫），31年74円（278円/貫），32年66円（249円/貫）である（焼津魚市場），しかし，漁獲量，魚価ともに一定しているから，これによる収入も一定し，経営も安定している，と考えるのはいささか早計である．第１に逐年にわたる漁船の大型化の上での漁獲量の固定である．第２はかつお漁のみによる収入では採算がとれないし，第３に，固定化の内容は沈滞以外の何物でもないからである．その原因は主としてかつおの消費面での停滞にある．今日，かつおに対する一般消費者の嗜好は極めて薄く，僅かに，かつお節，なまり節によって知られているに過ぎない．かつおは消費者から忘れられようとしているとさえ見受けられる．需要層の無関心は，市場価値の低落となって現れる．加えて限られた短期間に集中的に水揚される自然条件の不利が，これに拍車をかける．要するにかつおは市場において，刺戟の少ない魚と化しつつある．節以外の新しいかつお商品が現れない限り，かつお漁業の将来にはいよいよ困難性が深まるであろう．

◉不安定なびんなが漁業　かつお漁で採算がとれないとすれば，残された途は只一つ，５，６月の２ヵ月間におけるびんなが竿釣漁の成果にまたざるを得ない．ところが，このびんなが漁況は極めて豊凶の差が激しい．その例を次ぎに述べよう．

昭和30年のかつおまぐろ竿釣船によるびんなが漁獲量は２万４千トン（６百40万貫）であった．31年には４万１千トン（千百万貫）と増え，32年ではさらに４万５千トン（１千３百万貫）に増加した．ところが33年は急激に下落し１万９千トン（５百万貫），今年に至っては，いよいよ漁期も終末に近いが，その推定漁獲量は6～7千トン（百数十万貫），これでは最早不漁という言葉すら当らない．このような漁況の激変は当然，魚価に及ぶ．獲れなければ獲れないで困るし，獲れれば魚価の暴落を来たす．例えば，１キロ当り30年85円（318円/貫）だった焼津魚市場の平均価格は31年117円（439円/貫）とハネ上ったが，最大の豊漁年の年は一挙に71円（265円/貫）に暴落している．大獲貧乏の凄じい様相といえる．
これでは経営が安定する筈がない．豊凶常ならず然も漁況の予測すら出来ない．水揚状況や輸出面の思惑で左右される魚価，びんなが漁業は一種の「カケ」とも言えよう．従って，銀行筋のかつお竿釣業者に対する態度は常に慎重である．これらの問題を解決するためには，漁獲，魚価，その他すべての面で安定性を与えなければならないが，特に漁況の事前予測体制の整備と，その漁況に対応する生産態勢を確立することが是非必要である．これには政府当局，研究機関，業界が一致して，協力しなければならない．

◉コスト高の経営内情　かつおまぐろ竿釣船の生産コストは，まぐろ延縄船に較べて非常に高くつく．その最大の因は乗組員数が圧倒的に多いためである．一例を150屯型船にとってみると，まぐろ延縄船の乗組員は精々22，３人である．これに対してかつおまぐろ竿釣船の場合には実に55人から60人である．かつおまぐろ漁船乗組員の給与には歩合制度がとられている．漁獲高から航海諸経費を差引いた額を船主と乗組員が一定の率に従って分配する方法である．まぐろ延縄船では船型等によってその配分比率に差等があるが，概ね，船主６割５分—７割対乗組員３割５分－３割の割合で配分される．これに対してかつおまぐろ竿釣船では船主５割—４割５分対乗組員５割—５割５分と乗組員に比重が傾いている．その上かつおまぐろ竿釣船では漁法の関係から活餌料を使うことや，密集した，しかも餌付のよい魚群に会合しない限り豊漁を期待できないのである．したがって，かつおまぐろ竿釣船は豊凶常ならないものの典型ともいえよう．現にまぐろ延縄船への転移が業界の基本的な中型船対策になっている程である．

中小型まぐろ延縄漁船

中小型まぐろ延縄船の直面する問題は，主として「漁場問題」という形に要約される．これらの漁船の行動半径内にある漁場は，前述の如く徐々に漁場価値を減少しつつある．漁場の拡散も，この絶対的条件の前には一時の急場しのぎでしかない．さらに問題なのは漁獲物たるまぐろの主な供給先が，値うごきの烈しい国内市場向けとされている点である．中小型まぐろ延縄船は，漁況の不振に悩み，かつ，市況の変動に悩む．

その解決には，漁場的展開と国内市場問題について適切な施策を講ずることが必要である．漁場的展開とは船型の大型化による合理化である．しかし，これも特例法の失効している現在，厳重な条件内でなされなければならない．さらに，全体の操業力を現在以上に増やせない，という鉄則がある以上，多額の資金を必要とする２隻以上の合併による大型化しか手段はないが，しかも，その大型化を期しうる段階は，この方法をもってしても，現在百屯

以上の漁船のみである．それ以下の漁船はどんなに隻数を集めてみても百屯以上の大型化は認められず，現在よりいくらか行動半径を拡げうるだけなのである．従って，これらの合併による大型化に対しては，百屯以上への大型化ができるようその法律改正が強く叫ばれている．

そこで中小型漁船のための漁場転移措置として，前進基地問題が浮び上ってくる．現在稼働している基地漁業は，米領サモア諸島のツツイラ島，ニューヘブリデス諸島のサント島の2ヵ所，又，前進基地の変形としての合弁漁業ではセイロンが既に操業中，近くシンガポール，マラヤなどでも実現化が進んでいる．現状では精々50隻程度の収容力しかないが，今後の進展は中小型漁船の一つの希望といえるだろう．しかも漁獲物を現地に水揚することによって新しい市場の開拓という大きな使命をになうのである．

しかし，このように有効な手段であるこの問題も，現実には種々の外交的，経済的諸問題を伴っていて，そう簡単には実現し得ない状況におかれている．基地建設のための海外投資，漁獲物又はその製品の現地市場や輸出市場に対する配慮，現地政府の政策との関連，日本内地かつおまぐろ産業との調整など，基地問題推進の前には複雑な問題が横たわっている．

中小型船のもう一つのネックとして国内市場の問題が挙げられる．具体的には国内消費の伸びなやみ，浮沈常なき魚価の変動，などである．この点が是正されないかぎり，内需に依存する中小型まぐろ延縄漁船の経営は何時までも安定しないといえよう．

(2) 輸出面の問題——米国市場の種々相——

かつおまぐろの輸出は，この漁業を左右する重大問題である．と同時に，輸出を前提として成立っている大型漁船の経営と直結する問題でもある．

かつおまぐろの漁獲量の4割は輸出される（前掲）．国内市場の伸びがすでに限界に近いのではないかとみられる現在，秩序ある輸出の伸長こそ，かつおまぐろ漁業の輝やかしい将来を約束する鍵である．しかるに，その現状たるや極めてデリケートな問題と多くの阻害要因を内包しており，安易な観測を許さない．

第1に，かつおまぐろ類の全輸出量の8割を占めるアメリカ市場とのかね合いである．かつおまぐろ市場としてみたアメリカと日本の関係は次のように要約される．

最近におけるアメリカのかつおまぐろ需要量は年間25万トンと推定され，さらに年々増大しつつある．

これに対してアメリカ国内の供給量は，15万トン前後とみられる．即ち，アメリカでは少いときで10万トン，多いときで15万トンのかつおまぐろが不足しているわけである．不足分は輸入しなければならない．日本のかつおまぐろは，アメリカにおける不足分を充足する．つまり，アメリカのまぐろ産業は日本にその原料魚の供給を依存せざるを得ないが，同時にこれを牽制しようとする相反した二つの動きがみられる．日米両国は相互に依存し，かつ相互に反撥する．

このような二つの相反する現象の原因は，主としてアメリカ国内のまぐろ産業の組成のなかに，その萌芽が存在する．

具体的にいうと，第1は毎年，年中行事のごとくアメリカ議会で論議の対象となっている日本産まぐろ類の輸入制限措置，関税障壁強化運動に表現されるアメリカ漁業者筋の日本に対する反感，第2はアメリカ国内における缶詰業者対漁業者の関係，第3は缶詰業界内部の大業者対中小業者の対立，主としてこれらの中に問題点が介在しているといえるだろう．

漁 業 問 題 者

仮りに，日本からかつおまぐろがアメリカに全く入らなかった，とする．原料不足，価格高は必至である．だから日本まぐろの多量輸入はアメリカのまぐろ魚価を軟化させるのだ，と米国の漁業者は考える．

彼等にしてみれば，輸入量は少ければ少いほど収入はよいわけで，この面に関する限り，日米両国は完全な対立関係に立つ．輸入制限運動の根底は，純然たる経済的利害関係にある．

漁業者対缶詰業者

アメリカの漁業者は「売買価格は毎年下降」の傾向にある．これは，日本の安いまぐろが大量に流入するからだといっている．

しかし，われわれは「両者の公正な商戦の結果である」と考える．日本の例に徴してもわかることであるが，アメリカにおける，買取側の缶詰業者は常に原魚価格を叩こうとする．売手側の漁業者は反対に高く売ろうとする．

価格は両者の力関係と需給状況によって何れかに傾く.

従って，缶詰業者が安く買うためには，日本のかつおまぐろ輸入を利用するだろうことも想像に難くない．アメリカでの魚価交渉に，日本のかつおまぐろが何らかの役割りを演じさせられていることは事実であろうが，それは結局，本質的にはアメリカ国内の経済問題である.

何故なら，日本側はアメリカの漁業者を刺激しないように，又，アメリカのまぐろ産業界を混乱に陥入らせないように，輸出数量，価格について自主的に厳重な統制を行っており，不当輸出やダンピングの事実はないからである.

大手缶詰業者対中小缶詰業者

何処も同じであろうが，大手業者が中小業者を圧迫しているということを聞く．大缶詰業者が大西洋沿岸（東部）に大規模な缶詰工場を建てて本格的に生産を始めている.

アメリカのまぐろ缶詰は主として西部で生産されるが，その消費は主として東部地方である．西部は缶詰を生産し，東部に送る．東部はこれを消費する，という形で米国市場は構成される．だから，東部（大西洋沿岸）での生産は消費に直結する．つまり東部で生産された缶詰は，西部のものより諸掛が安く，缶詰の中心市場に近いだけ市況に敏感でそれだけ有利に売れるわけである．そうなると東部に進出できない中小缶詰業者は到底太刀打ち出来ないことになる.

そこで，日本まぐろの顧客であるこれら中小缶詰業者も，漁業者と結びついて，国内的には大手業者と対抗したり，また対外的には日本漁船による大西洋中継まぐろの輸入に反対するような立場になることも考えられる.

日本国内の課題

日本からアメリカに輸出されるかつおまぐろ類の数量は，冷凍，缶詰を合せて年間略々10万トンという枠が設定されている.

日本側としては，この輸出の量が多ければ多いほど良いわけだが，輸入制限法や関税障壁が強化されたのでは元も子もなくなってしまう．だから米国市場に対する日本側の神経の使い方は異常なまでに慎重である．このためには，安売の防止と輸出秩序の維持が何よりも大切である.

かつおまぐろ輸出業界の過去数ヵ年にわたる動きは，すべてこの一点に集中されている．既に設立され，活動しているかつおまぐろ缶詰共販会社，近く実施を予想される冷凍まぐろ共販体制の確立など，窓口の一本化への動向は，この間の消息を物語っている.

しかし，これによって輸出数量の調整はある程度見通しを得ることができようが，肝心の価格調整の方は未だその成果を収めていない.

理想的には，アメリカの消費価格を基準にして日本産のまぐろがたとえどこから積出されてもアメリカの消費地域で同じ価格に落ちつくようＦＯＢ価格を調整することができればよいのだが，そこにゆく迄には，なお相当の問題をかかえている.

日本産のまぐろは日本から輸出されるほかカリブ海諸島など全世界20幾つかの中継地，前進基地からアメリカに輸出されている．その数量は恐らく3万トンに達するものとみられている．しかし，このことは同時に価格調整の困難さと結びつく．現に，最近ある仲継基地でなされた若干の販売の在り方が重大な原因であるとして，かってない程の輸入制限運動を誘発するという反響を生んでいる．未だ緒についたばかりのヨーロッパ市場をはじめ，アメリカ以外にこれといった好市場がない現在，合理的な対米輸出体勢の確立こそ，その将来のすべてである，ということができるだろう.

## む　す　び——かくてわれわれは反対する——

以上によって，われわれは，かつおまぐろ漁業の現状を概説するとともに，当面する諸問題について卒直に披瀝した．北洋さけます漁業の転換問題に対するわれわれの考え方も右の文中に判っきり表現されていると思う.

われわれは右のような現状にもとづく純漁業的な立場から，北洋さけます漁業者のかつおまぐろ漁業への転換については絶対反対する.

更には，われわれが与えられた条件のなかで，かつおまぐろ漁業の発展のため，自らの合理化に努力を傾注している真摯な意慾を無に帰せしめないためにも，その転換については絶対に反対するものである.　以上

# 昭和33年度会務及び事業報告

11月10日午後3時より三浦市温泉亭において昭和33年度役員会を開催し次の議題を付議して夫々承認可決した.

1. 昭和33年度業務報告の件並びに同収支決算の件
2. 昭和34年度上半期（4月—10月）仮決算の件
3. 昭和34年度事業計画並びに収支予算書更正承認の件
4. 鮪漁業研究会運営の件其の他について

## ◎昭和33年度業務報告

1. 会誌　鮪漁業第49号—第56号発刊す(昭和33年4月—昭和34年3月), 鮪類水揚地調査報告（昭和31年度版）発刊す.
2. 鮪漁業講演会を神水試講堂にて開催す.

昭和33年8月7日

講演題目及び講師

1. マグロ漁況予察の問題
　南海区水産研究所所長　中　村　広　司
2. 北部太平洋におけるマグロ漁況の予察
　〃　技官　須　田　明
3. 印度洋の漁況
　〃　技官　三　村　皓　哉
4. ゴウシュウマグロの漁場及び東部赤道海域におけるメバチとキハダの漁場
　南海区水産研究所　技官　上　村　忠　夫

（上記講演要旨会誌第53. 54. 55号に掲載す）

3. 会員数（昭和34年5月31日現在）

599名

| 内　訳 | 正　会　員 | 18名 |
|---|---|---|
| | 賛助会員 | 7名 |
| | 購読会員 | 574名 |

会員数（昭和34年10月31日現在）

605名

| 内　訳 | 正　会　員 | 19名 |
|---|---|---|
| | 賛助会員 | 7名 |
| | 購読会員 | 579名 |

4. 賦　課　金

| 会費 | 購読会員 | 年額 1,500円　会誌送料200円 |
|---|---|---|
| | 賛助会員 | 年額10,000円 |

## ◎昭和33年度収支決算書

収　入　の　部

| 費　目 | 昭和33年度 予算額 | 昭和33年度 決算額 | 差引増減 (△減) | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 会　費 | 959,000円 | 763,809円 | △ 195,191円 | |
| 賛助会員 | 300,000円 | 0 | △ 300,000円 | |
| 広告料 | 800,000円 | 616,500円 | △ 183,500円 | |
| 雑収入 | 50,000円 | 66,256円 | 16,256円 | |
| 前年度繰越金 | 62,917円 | 62,917円 | 0 | |
| 未納会費 | 277,600円 | | △ 277,600円 | 未収　31年　12,300円　11名<br>32年　133,400円　82名 |
| 計 | 2,449,517円 | 1,509,487円 | △ 940,035円 | |

支　出　の　部

| 費　目 | 昭和33年度 予算額 | 昭和33年度 決算額 | 差引増減 (△減) | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 事務費 | | | | |
| 給料手当 | 481,400円 | 446,000円 | △ 35,400円 | |
| 旅　費 | 150,000円 | 117,300円 | △ 32,700円 | |
| 交際費 | 100,000円 | 79,992円 | △ 20,008円 | |
| 諸会費 | 80,000円 | 44,500円 | △ 35,500円 | |
| 分担金 | 40,000円 | 33,330円 | △ 6,670円 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 雑　　　費 | 40,000円 | 51,189円 | 11,189円 |
| 事業費 | | | |
| 印刷製本費 | 600,000円 | 226,340円 | △ 373,660円 |
| 人　件　費 | 192,500円 | 209,470円 | 16,970円 |
| 通　信　費 | 50,000円 | 28,081円 | △ 21,919円 |
| 報　償　費 | 250,000円 | 113,000円 | △ 137,000円 |
| 職員退職積立金 | 100,000円 | 50,000円 | △ 50,000円 |
| 予　備　費 | 365,617円 | 0 | △ 365,617円 |
| 次年度繰越金 | | 110,280円 | |
| 計 | 2,449,517円 | 1,399,202円 | △1,050,315円 |

## ◎昭和34年度上期（昭和34年4月～10月）収支決算書

収入の部

| 費目 | 金額 | 摘要 |
|---|---|---|
| 会費 | 377,975円 | 賛助,購読会員費223名 |
| 広告料 | 276,500円 | 賛助 153,000円<br>年賀 8,500円<br>暑中 115,000円 |
| 雑収入 | 64,230円 | 会誌　操業図他 |
| 前年度繰越金 | 110,280円 | |
| 計 | 828,985円 | |

支出の部

| 費目 | 金額 |
|---|---|
| 印刷製本費 | 194,940円 |
| 給料手当 | 352,720円 |
| 交際費 | 23,625円 |
| 諸会費 | 5,681円 |
| 分担金 | 10,990円 |
| 旅費 | 106,000円 |
| 通信費 | 18,353円 |
| 報償費 | 5,500円 |
| 振替貯金手数料 | 4,820円 |
| 雑費 | 17,253円 |
| 計 | 739,882円 |

差引残高 89,103円

| | | |
|---|---|---|
| 未納会費 | 773,200円 | 昭和33年度，34年度分（金額1,500円，1,700円）470名分 |
| 未収広告料 | 225,000円 | |

別表昭和33年度収支決算書昭和34年度上期（4月—10月）収支仮決算書について11月4日，7日の両日台帳証票書類等につき照合監査致しましたがいずれも決算書の通り相違ないことを報告致します．

昭和34年11月9日

監事　崎島乙好
〃　四宮政矩
〃　河口喬太郎

## ◎昭和34年度収支予算書

収入の部

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 会費 | 946,000円 | 購読会員 | 580名分 | (380名……1,700円<br>200名……1,500円) |
| 賛助会費 | 200,000円 | 賛助会員 | 20名分 | ( 1名……10,000円) |
| 広告料 | 700,000円 | 年賀，暑中見舞広告<br>賛助広告 | | 300,000円<br>400,000円 |
| 雑収入 | 80,000円 | 会誌その他図書誌代他 | | |
| 前年度繰越金 | 110,280円 | | | |
| 未納会費 | 131,900円 | 昭和33年度分会費 | 80名 | (1,700円……60名<br>1,500円……20名) |
| 計 | 2,168,180円 | | | |

支　出　の　部

| | | |
|---|---|---|
| **事務費** | | |
| 給料手当 | 501,700円 | 職員2名分給料（28,000円，6,600円）<br>期末手当2回　2.5ヵ月分 |
| 旅費 | 150,000円 | 役職員出張月当り　12,500円 |
| 交際費 | 100,000円 | 事業用 |
| 諸会費 | 80,000円 | 講演会，座談会，役員会他 |
| 分担金 | 40,000円 | 公課他 |
| 雑費 | 50,000円 | 光熱水費他 |
| **事業費** | | |
| 印刷製本費 | 650,000円 | 会誌鮪漁業その他印刷代 |
| 人件費 | 192,500円 | 1人1日550円，350日分 |
| 通信費 | 50,000円 | 会誌送料，電報電話料等 |
| 報償費 | 150,000円 | 原稿料　100,000円<br>広告募集費　50,000円 |
| 職員退職積立金 | 50,000円 | |
| 予備費 | 153,980円 | |
| 計 | 2,168,180円 | |


鮪延縄漁具製作に革命をもたらす新漁具

鮪延縄用SKスリーブ及びプレッサー

実用新案登録番号　132570・132571

本品は手軽に締めつけが出来て誰でも出来不出来がありません．その上製作に時間と労力を要せず強度も一定で革命的のものであります．東京水産大学練習船海鷹丸では既に使用されていて実用上その耐久力強度については充分に立証されております．

須　田　製　作　所

営業所　東京都中央区銀座東6—4 日交ビル　電話(54)3904～7
第1工場　東京都中央区月島通11—6　電話(64)1095
特約販売店　三浦市三崎港　日本民衆産業KK三崎出張所　電話(三浦 2205. 3503

※ 説明資料は鮪漁業研究会に申込下さい ※

# 本会の図書誌の分譲其の他について

◎本会発行の図書誌を分譲致しておりますから御申込下さい。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 会　誌「鮪　漁　業」第6—64号（第1—5号品切） | | 各150円 | 郵送料　16円 |
| 鮪類水揚地調査報告（自昭和 27 年 5 月　至昭和 28 年 4 月） | | | |
| 1　部　300円 | （B 5 判 150 頁） | | 郵送料　24円 |
| 鮪類水揚地調査報告（自昭和 28 年 5 月　至昭和 29 年 3 月） | | | |
| 1　部　400円 | （B 5 判 226 頁） | | 郵送料　40円 |
| 鮪類水揚地調査報告（自昭和 29 年 4 月　至昭和 30 年 3 月） | | | |
| 1　部　300円 | （送料を含む）（B 5 判 126 頁） | | |
| 鮪類水揚地調査報告（自昭和 30 年 4 月　至昭和 31 年 3 月） | | | |
| 1　部　400円 | （送料を含む）（B 5 判 135 頁） | | |
| 1956年4月～57年3月に於ける鮪漁場の漁況と海況 | | | |
| 1　部　500円 | （送料共）（B 5 判 112 頁） | | |
| 鮪漁船操業図（航走距離早見表、鮪類年令対体長体重表刷込） | | | |
| 1　枚　50円 | | | 郵送料　8円 |
| 鮪　漁　場　図（海区別に表示したもの） | | | |
| 10　枚　100円 | | | 郵送料　16円 |

◎会員各位の鮪漁業に関する調査や研究或は体験、漁具漁法の改良、遭難防止等についての投稿其の他写真を御願い致します。

◎本会に入会を希望される方は住所、氏名、職業、会誌の送り先を記入の上年間会費 1,500 円（他に会誌送料 200 円）を添えて研究会宛御申込下さい。

◎本誌に広告掲載希望の方は本会伊藤専務理事迄御申込下さい。

## ——お　願　い——

◎昭和33年分34年分会費（一ヵ年分 1,700 円）未納の方は本会宛至急払込送金方（振替貯金口座横浜1472）お願い致します。　尚整理の都合もあり会費切れの向には一時会誌の送本を中止致しますからお含み願いあげます。

鮪　漁　業

1959年12月号

昭和 34 年 12 月 10 日印刷
昭和 34 年 12 月 10 日発行
監　修　神奈川県水産試験場
編集兼発行人　菅　野　進
神奈川県三浦市　神奈川県水産試験場内
発　行　所　鮪漁業研究会
（振替貯金口座 横浜 1472）

営　業　品　目

商船用・漁船用並に陸上用無線通信装置

SSB 無線装置の製造・装備・補修一式

## 七洋電機株式会社

本社　東京都目黒区中目黒4丁目1315番地

電話目黒（712）2525・2526・3314番



太洋無線が世界に誇る

船舶用　航空機用　陸上用　各種

## 自動方向探知機

## 太洋無線株式会社

東京都澁谷区楽樂町48番地

電話澁谷（46）代表 5283—9 番



緑星社のSV58型ラジオブイ

用途；鮪延縄・鮭鱒流網・捕　鯨・底曳トロール

〃　漁具流失防止　位置確認　操業時間短縮 等々

株式会社　## 緑　星　社

代表取締役　吉　田　内　次

研究所　東京都中央区築地5の1（東京中央卸売市場内）

電話（54）2371番

営業所　東京都中央区小田原町2の11 電話(54)1797(代)1798番

函館出張所　函館市根崎町140番地 電話函館(2)5825番

# ══設　備　完　成══

**鋼木船造修一般**

500噸船台三基
起重機10噸・5噸各一基

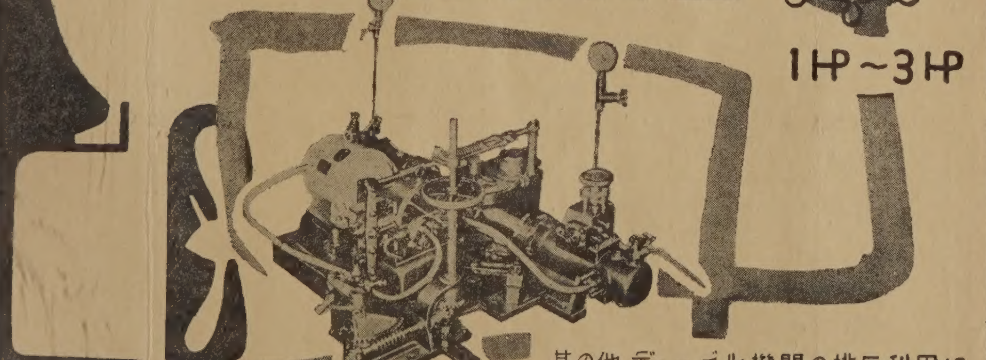
## 三崎船舶工業株式会社

本　社　東京都中央区西八丁堀2の10
電話築地(55) 966・15
工　場　神奈川県三浦市三崎町向ヶ崎2446
電話(三浦) 2880・2934・2343

---

# 川崎ヘルショウ式
# 電動油圧　舵取装置

1HP～3HP



其の他 ディーゼル機関の排気利用による小型船用 造水装置

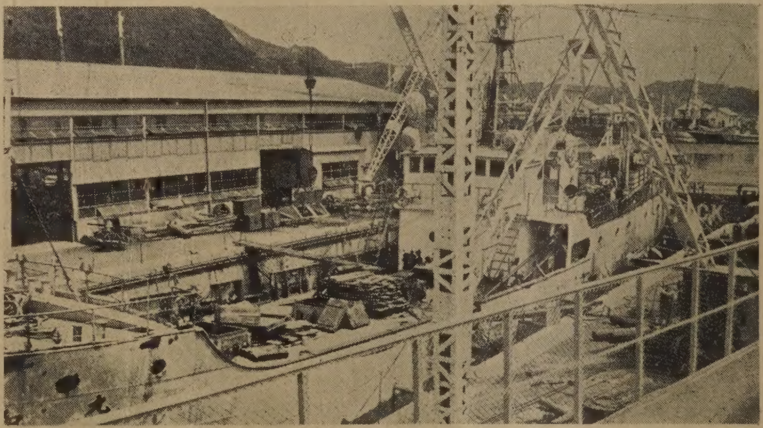
## 川崎重工業株式會社

神戸市生田区東川崎町二丁目一四(電)湊川(5)7531
東京支店　東京都港区芝田村町一丁目(日比谷ビル)(電)(59) 6101
(本紙名記入の上御一報下されはカタログ御送附致します)

# 漁船の建造、修理の御相談は

| ドライドック | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 大きさ | 長さ | | 幅 | 深さ | |
| | 59.15 米 | | 14.0 米 | 6.6 米 | |
| 入渠可能船舶 | 長さ(垂線間) | 幅(型) | 吃水(平均汐高線1.7米に於て) | 総屯数 | |
| | 57.0 米 | 11.0 米 | 4.41 米 | 800屯 | |

| 船台兼船架 | 構造 | 長さ | 総屯数 | 数量 |
|---|---|---|---|---|
| 建造又は上架可能船舶 | 4条軌条算盤式 | 50 米 | 500屯 | 2 |
| | 2条軌条式 | 50 米 | 250屯 | 2 |



## 下田船渠株式会社

静岡県下田港　本社事務所 電話下田 1001(代表)～3番　本社現場事務所 電話下田1005(代表)～6番
武ヶ浜工場 電話下田 1008(代表)～9番
東京事務所　東京都中央区銀座東4—4 畜産会館1階　電話東京(54)9270(直通),4121(代表)～8番



# 紫綬褒章に輝やく
# 泉井式ラインホーラー

株式會社　泉井鉄工所
高知県室戸町



鮪漁業 第六十四号 昭和三十四年十二月十日発行（毎月一回十日発行）
昭和三十一年二月二十三日 第三種郵便物認可